2022

古文・漢文

問題データベース CD-ROM Vol.4

Windows用

平成20-22年度版

［使用マニュアル］

明治書院

【目次】

◇第 1 章　はじめに

●このソフトで何ができるのか？

当ソフト、問題データベース（※ 1）では、現代文、古文 / 漢文合わせて約 1500 問（センター・国公立・私立）の大学入試問題からデータを検索し、問題作成することができます。

●箱の中身の確認

（現代文）

- 現代文問題データベース CD-ROM…1 枚
- 取り扱い説明書（本書）…1 冊
- ユーザー登録用紙…1 枚

（古文 / 漢文）

- 古文 / 漢文問題データベース CD-ROM…1 枚
- 取り扱い説明書（本書）…1 冊
- ユーザー登録用紙…1 枚

●製品の概要

■豊富な問題

現代文、古文 / 漢文合わせて約 1500 問の大学入試問題からデータを検索して頂けます。

■シンプルなインターフェイス

余分な作業手順は省き、パソコンに触れる機会が少ない方でも最小限の操作ステップで問題を検索して頂けます。

■フル編集サポート

全ての問題は、ワープロソフト上で自在に編集出来るデータ形式を採用しています。

■ファイル出力機能

お使いのパソコンにワープロソフト（※ 2）がインストールされていない場合でも、検索した問題をリッチテキスト（※ 3）ファイル（rtf）形式で出力し、他のパソコンやアプリケーションでご利用頂けます。（一部記号や書式は再現されません。）

※問題データベース CD-ROM の旧製品をインストールしているフォルダに新製品をインストールしないようにしてください。
同一フォルダにインストールしますと、旧製品が使用できなくなります。
もし、同一フォルダにインストールされた場合は、新製品を一度アンインストールし、旧製品、⇒新製品の手順で再度インストールし直してください。

※ 1…第 5 章　基本的な情報 - 基本的な用語について - データベース参照（p.26）
※ 2…第 5 章　基本的な情報 - 基本的な用語について - ワープロとワープロソフト参照（p.26）
※ 3…第 5 章　基本的な情報 - 基本的な用語について - リッチテキスト参照（p.26）

●免責事項

本書の内容に関しては、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点があれば、明治書院（以下「小社」という）までお問い合わせください。

①お客様は、本製品について、以下の事項を了承するものとします。

⒜ 本製品に収録される情報（問題）は各大学の入学試験で出題されたものであり、各設問の妥当性について小社は責を負わないこと。

⒝ 本製品に収録される情報（問題）には実際の出題とは異なる表記や修正を加えている場合があり、オリジナルとの完全な一致を保証するものではないこと。

②本製品の提供する情報に不備があった場合などは、 訂正情報の提供などにより対応することとし、製品の交換には応じません。

③小社は本製品に疵や汚れ、破損があった場合には、お客様の本製品購入後 90 日以内に限り、本製品の良品との交換を行うものとします。ただし、交換時期、交換方法等は小社の判断に基づくものとします。

④本製品に関する小社のお客様に対する損害賠償責任は、故意または重過失による場合を除き、直接的かつ通常の損害の賠償に限られ、また、本製品の標準価格を限度とします。本項は、本製品に関する小社のお客様に対する損害賠償責任の全てを規定したものとします。

⑤本製品に収録される問題に引用されている作品の著作権は各著作権者に帰属します。

⑥本製品プログラムおよび電子化データの著作権は小社に帰属します。

⑦小社はお客様に対し、本取扱説明書に従い、お客様自身が使用するパソコン１台に限り、本製品をインストールする権利を許諾します。また、非営利目的に限り、本製品から抽出・加工したデータを使用・配布する権利を許諾します。

⑧お客様は本製品について以下の行為をすることはできません。

⒜ 本使用規定に明示的に許諾される場合を除き、複製、改変、解析、送信すること、ネットワーク等により同時に２台以上の機器で使用することおよびその他の使用または利用をすること。

⒝ 第三者に上記⒜の行為を許可することおよび有償で譲渡または貸与すること。

⑨本使用規定に定めのない事項については、著作権法および関連法規に従うものとします。

◇第２章　このソフトを使用するための準備

●ステップ１　ソフトが使用できるまでの流れ

①アプリケーションのインストールを行います。
→６頁

↓

②アプリケーションの起動を行います。
→11頁

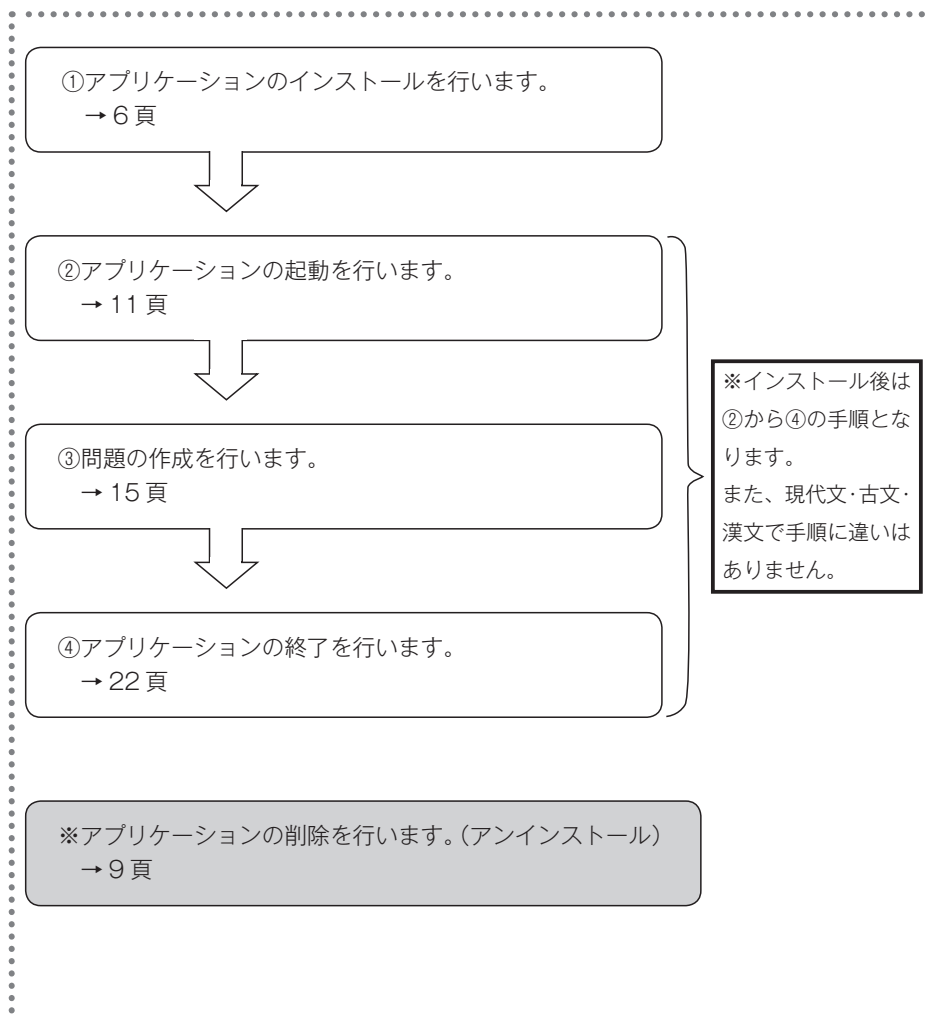
↓

③問題の作成を行います。
→15頁

↓

④アプリケーションの終了を行います。
→22頁

※インストール後は②から④の手順となります。
また、現代文･古文･漢文で手順に違いはありません。

※アプリケーションの削除を行います。（アンインストール）
→９頁

●ステップ２　ソフトを使用いただけるパソコン環境

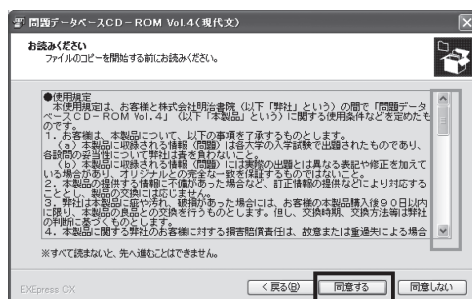
■ＯＳ：Microsoft Windows XP(※4) 32Bit 日本語版（Home Edition(※5)/Professional）SP3(※6)
Microsoft Windows Vista 32Bit 日本語版（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate）SP2
Microsoft Windows 7 32Bit 日本語版（Home Premium/Professional/Ultimate）
■ＣＰＵ：Intel Pentium/Celeron 系列、AMD K6/Athlon/Duron ファミリ、またはこれらと互換のプロセッサを推奨
300MHz 以上
■メモリ：256MB 以上
■ Microsoft Word：XP、2003、2007 のいずれか
■ジャストシステム一太郎：2005 ～ 2010
■ドライブ：CD-ROM ドライブ、又は DVD-ROM ドライブ
■マウス
■ハードディスク：
（現代文）600MB 以上の空き容量
（古文）300MB 以上の空き容量
（漢文）300MB 以上の空き容量

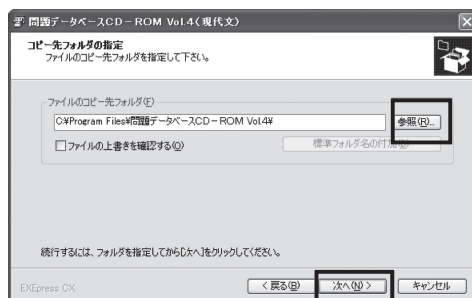
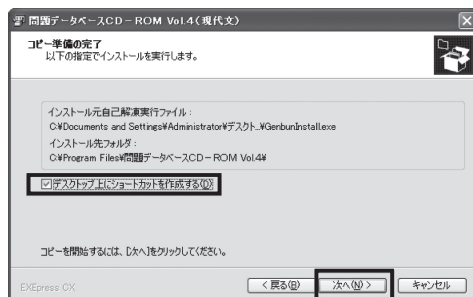
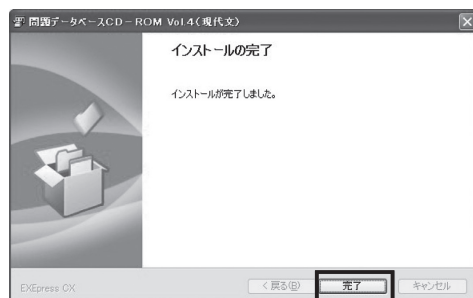
※４…第５章　基本的な情報 - 基本的な用語について - バージョン参照（p.27）
※５…第５章　基本的な情報 - 基本的な用語について - エディション参照（p.27）
※６…第５章　基本的な情報 - 基本的な用語について - サービスパック参照（p.27）

●ステップ３　ソフトの導入（インストール）を行う

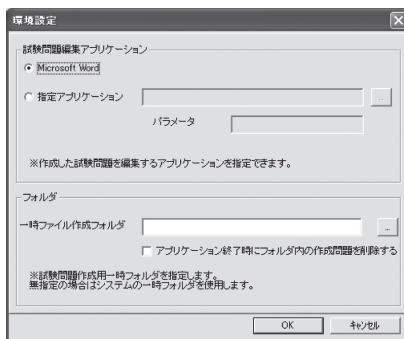
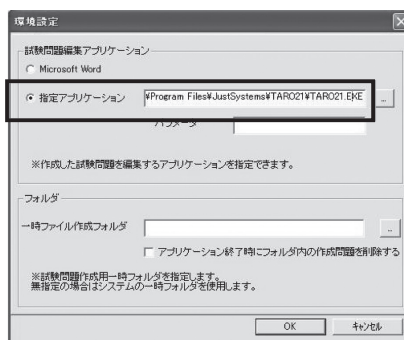
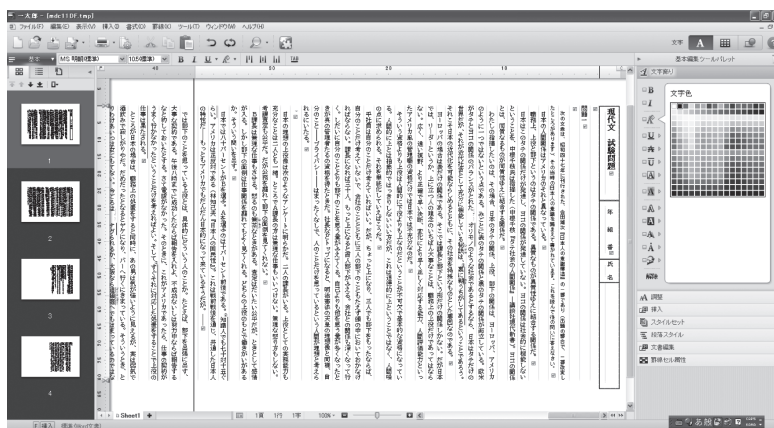
1．CD-ROM を開き､インストーラー（※）をダブルクリックし､｢次へ｣ ボタンをクリックします。

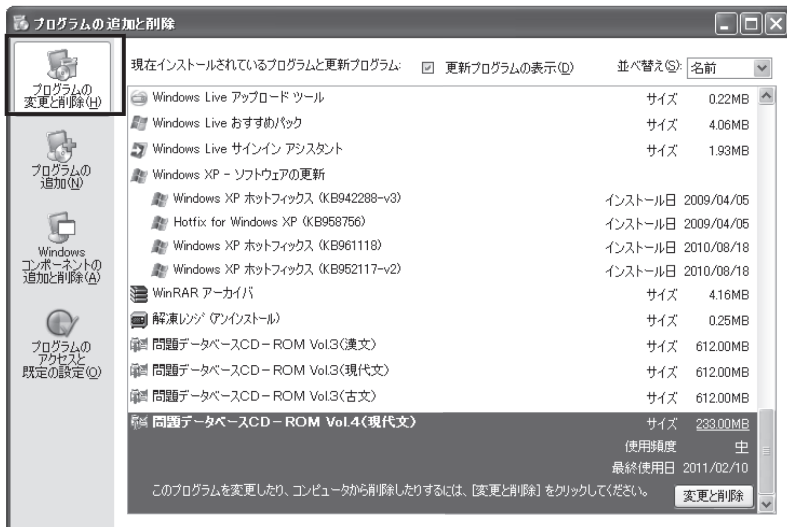
※…CD-ROM 内、現代文（setup.exe)、古文（KobunInstall.exe)、漢文（KanbunInstall.exe)

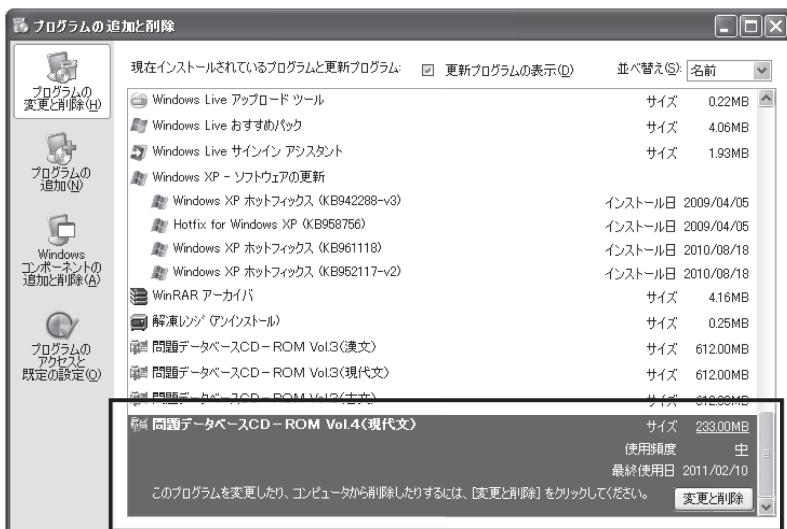
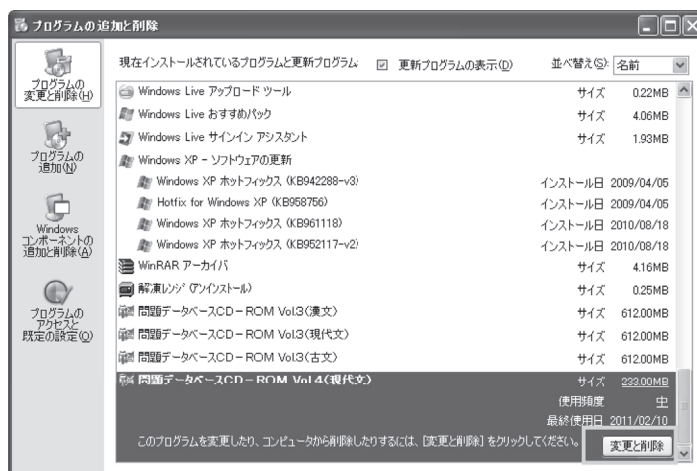
2．利用規約を全て読み（スクロールバーでスクロールし、全て読むことで「同意する」ボタンがクリック可能となります。)、「同意する」ボタンをクリックします。

3．「参照」ボタンを押下し、インストールしたいフォルダを選択した後（※)、「次へ」ボタンをクリックします。

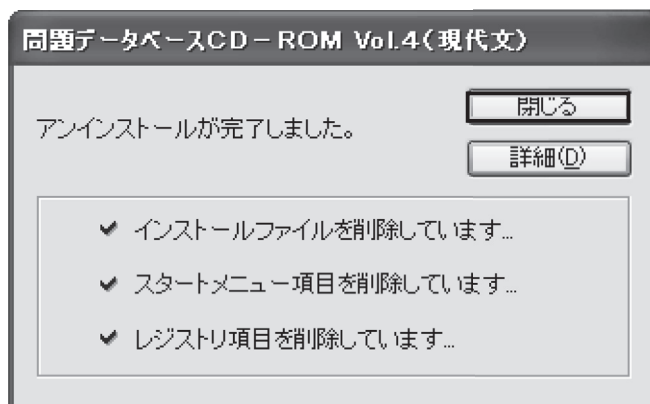
※…初期設定は、現代文…C:¥Program Files¥問題データベースＣＤ－ＲＯＭ Vol. ４、古文 / 漢文…C:¥Program Files¥問題データベースＣＤ－ＲＯＭ Vol. ４となっており、特に変更する必要はありません。

4．デスクトップにショートカットを作成したい場合は、「デスクトップ上にショートカットを作成する」にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

5．「完了」ボタンをクリックします。これでインストールは完了です。

< 場合によって必要になる設定 >

●ステップ４　使用するワープロソフトを一太郎に変更する

1．問題データベースを起動し、上部メニューの<ツール(T)>⇒環境設定をクリックします。

2．「指定アプリケーション」を選択し、一太郎の実行ファイルを指定します。

3．上記手順にて「問題作成」ボタンクリック時に起動するワープロソフトが一太郎に設定されます。

●ステップ５　ソフトの削除（アンインストール）を行う

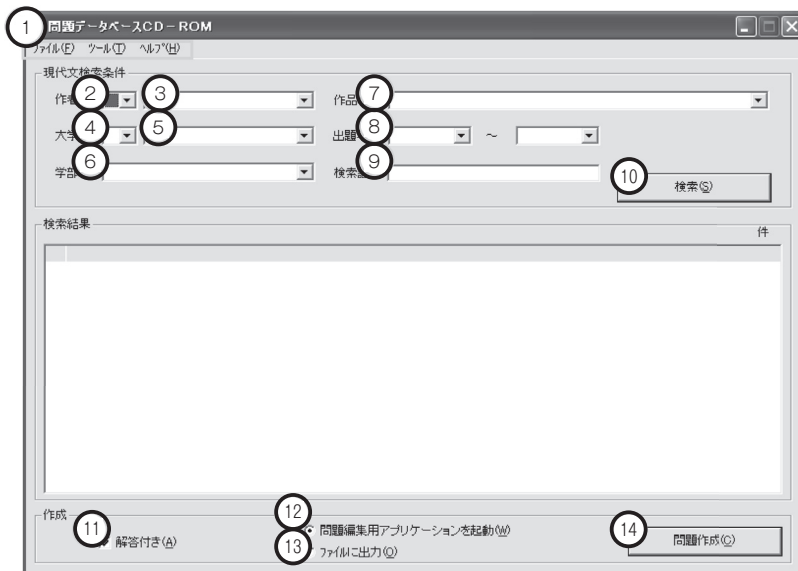
1．コントロールパネル→プログラムの追加と削除をクリックし、「プログラムの変更と削除」が選択されていることを確認します。

2．問題データベース Vol4（現代文）（※）をクリックし、選択します。

※…古文の場合は問題データベース Vol4（古文）、漢文の場合は問題データベース Vol4（漢文）を選択します。

3.「変更と削除」ボタンをクリックします。

4.「はい」ボタンをクリックします。

5.「閉じる」ボタンをクリックし、アンインストールは完了です。

◇第３章　このソフトを使用する

＜問題を作成するまでの手順＞

●ステップ１ 最初に表示される画面の説明（問題作成編）

■現代文

１…各メニュー：別途「環境設定編」ページ（p.19）にて詳細に説明いたします。

２…作者（左）:「あ」～「ん」を指定します。（選択した音で作者（右）が絞り込まれます。）

３…作者（右）：作者を指定します。選択した作者で検索結果が絞り込まれます。

４…大学（左）:「あ」～「ん」を指定します。（選択した音で大学（右）が絞り込まれます。）

５…大学（右）：大学を指定します。選択した大学で検索結果が絞り込まれます。

６…学部：学部を指定します。選択した学部で検索結果が絞り込まれます。

７…作品名：作品名を指定します。選択した作品名で検索結果が絞り込まれます。

８…出題年度：出題年度を指定します。選択した出題年度で検索結果が絞り込まれます。

９…検索語：指定した語句を含む問題で検索結果が絞り込まれます。

10…検索：検索を実行します。

11…解答付き：解答付きで問題を作成する場合にチェックします。

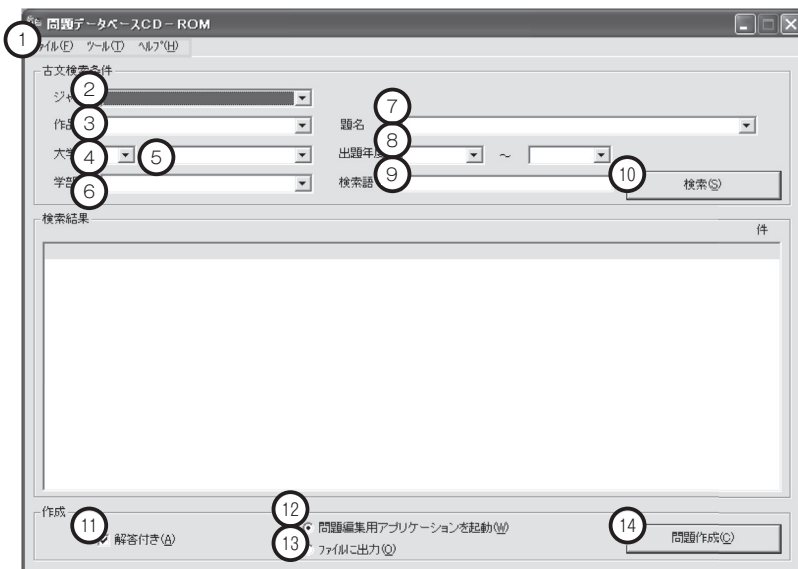
12…問題編集用アプリケーションを起動：問題作成ボタンクリック時、指定のワープロソフトを起動します。

13…ファイルに出力：指定のワープロソフトを起動せず、ファイルにのみ出力します。

14…問題作成：問題を作成します。

※上記２・３以外は現代文・古文 / 漢文共通の仕様です。

上記２・３は古文 / 漢文には項目が存在しません。

■古文 / 漢文

1 …各メニュー：別途「環境設定編」ページにて詳細に説明致します。

2 …ジャンル：ジャンルを指定します。選択したジャンルで検索結果が絞り込まれます。

3 …作品名：作品名を指定します。選択した作品名で検索結果が絞り込まれます。

4 …大学（左）:「あ」～「ん」を指定します。（選択した音で大学（右）が絞り込まれます。）

5 …大学（右）：大学を指定します。選択した大学で検索結果が絞り込まれます。

6 …学部：学部を指定します。選択した学部で検索結果が絞り込まれます。

7 …題名：題名を指定します。選択した題名で検索結果が絞り込まれます。

8 …出題年度：出題年度を指定します。選択した出題年度で検索結果が絞り込まれます。

9 …検索語：指定した語句を含む問題で検索結果が絞り込まれます。

10…検索：検索を実行します。

11…解答付き：解答付きで問題を作成する場合にチェックします。

12…問題編集用アプリケーションを起動：問題作成ボタンクリック時、指定のワープロソフトを起動します。

13…ファイルに出力：指定のワープロソフトを起動せず、ファイルにのみ出力します。

14…問題作成：問題を作成します。

※上記２・７以外は現代文、古文・漢文共通の仕様です。
上記２・７は現代文には項目が存在しません。

●ステップ２ データの検索を行う

1．検索条件を設定し、検索ボタンをクリックします。

※検索条件を設定する際、あまり多くの条件を設定しないことが目的の情報により早く辿り着くコツとなります。

（例）

目的を、「青山学院大学の法学部で平成 20 年の問題を検索したい。」と設定したとします。

①青山学院大学を検索条件に設定し、検索ボタンをクリックします。

⇒ 26 件の情報がヒットしました。

②26件の情報の中から目当ての情報を目視で探し出すのは困難ですので、さらに「学部」を追加し、検索ボタンをクリックします。

⇒5件の情報がヒットしました。この状態であれば後は目視で探し出せます。

③各問題の行をダブルクリックする事で、問題をクイックビューで参照することができます。

※検索語で検索した場合、その検索語がクイックビュー内では赤く強調表示されます。

●ステップ３ 問題を作成する

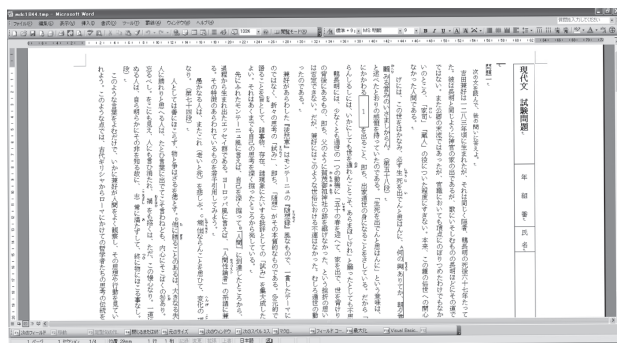
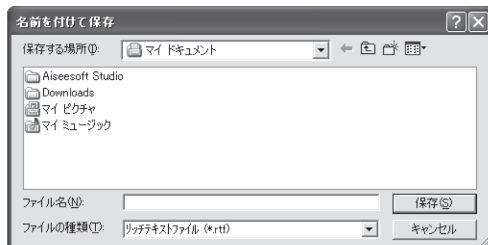
1．検索条件を設定し、検索ボタンをクリックします。

2．表示された検索結果の中から、作成したい問題の「選択」項目をチェックします。
「選択」項目は最大 10 個まで一度に選択することができ、複数チェックした場合、
１つのファイルにチェックした複数の問題が出力されます。

３．作成した問題をワープロソフトで起動したい場合は、「問題編集用アプリケーションを起動」を選択し、問題作成ボタンをクリックします。

ファイルに出力したい場合は、「ファイルに出力」を選択し、問題作成ボタンをクリックします。

「ファイルに出力」する場合は上記ダイアログが表示されますので、ファイル名を入力した後、「保存」ボタンをクリックして下さい。

（問題編集用アプリケーションを起動）

（ファイルに出力）

<今回からさらに便利になった機能>

更に今回から、「検索する」という機能を補助する機能がいくつか追加されました。

■並べ替え（ソート）機能

「ソート」とは、「ある特定のルールに基づいて並べ替える」ことを言います。

この問題データベースでは検索結果の項目名のタブをクリックすることで、以下のルールに基づいて「ソート」されます。

作者：SJIS 文字コード順に並べ替えられます。

作品名：SJIS 文字コード順に並べ替えられます。

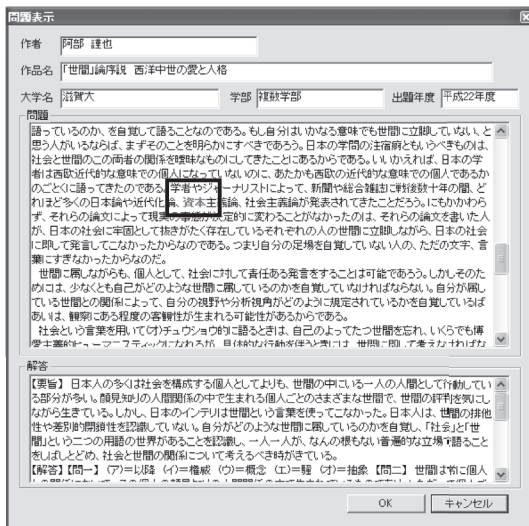
大学名：SJIS 文字コード順に並べ替えられます。

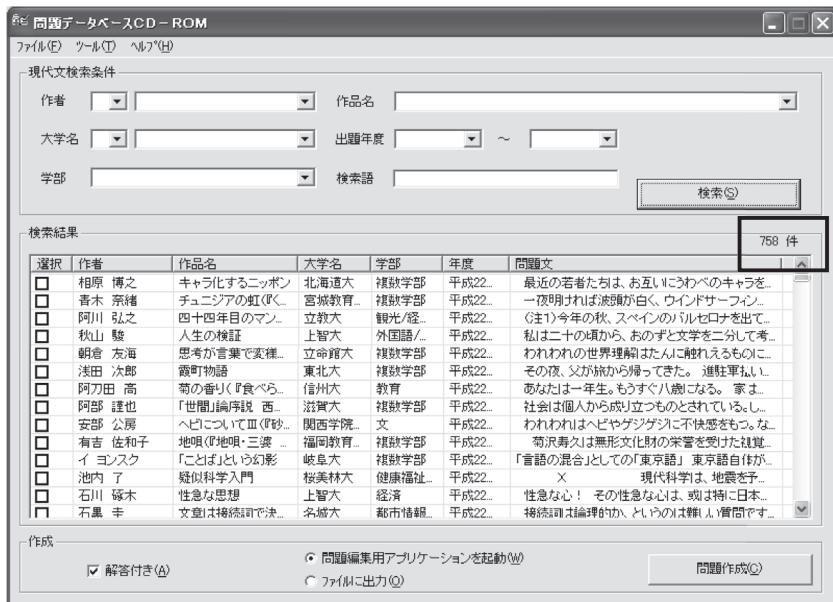
学部：SJIS 文字コード順に並べ替えられます。

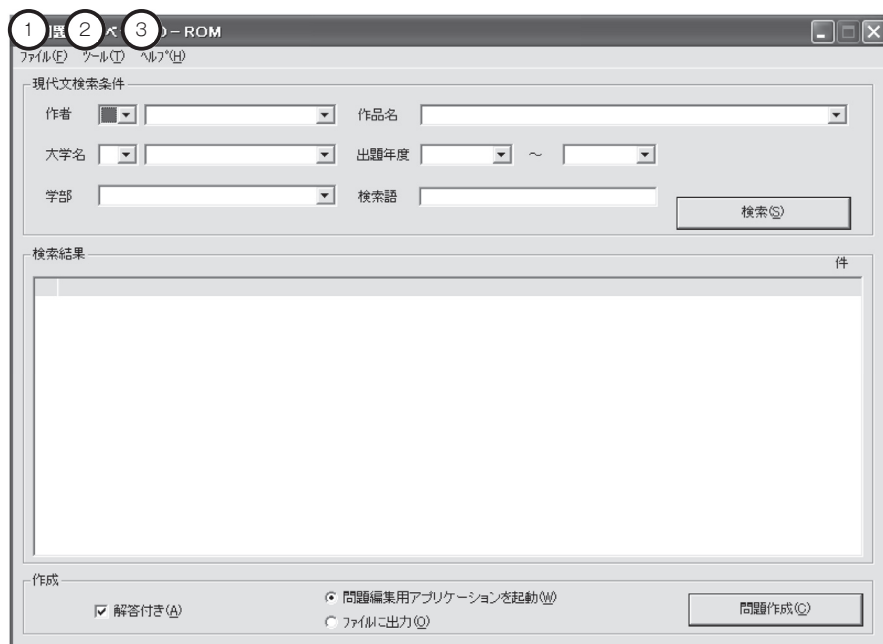
年度：年度の大きいものから順に並べ替えられます。

問題文：SJIS 文字コード順に並べ替えられます。

■強調表示

検索語を用いて、検索した結果をクイックビュー表示した際、クイックビュー内の検索語に該当する文字を赤字で強調表示しました。

■件数表示

検索結果の件数が表示されるようになりました。

＜環境設定などの手順＞

●ステップ１　最初に表示される画面の説明（環境設定編）

１…ファイル

⇒検索履歴を開く：過去保存した検索履歴を開きます。

⇒検索履歴を保存：検索条件を検索履歴として保存します。

⇒終了：アプリケーションを終了します。

２…ツール

⇒環境設定：詳細な動作設定を行います。

３…ヘルプ

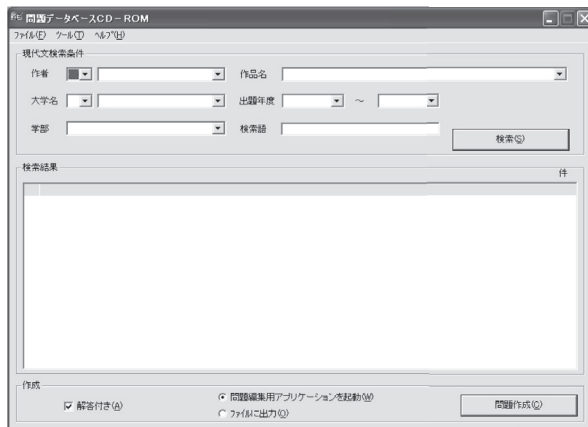
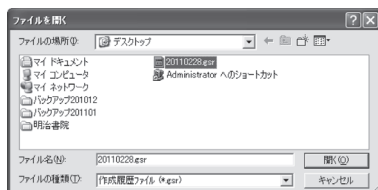
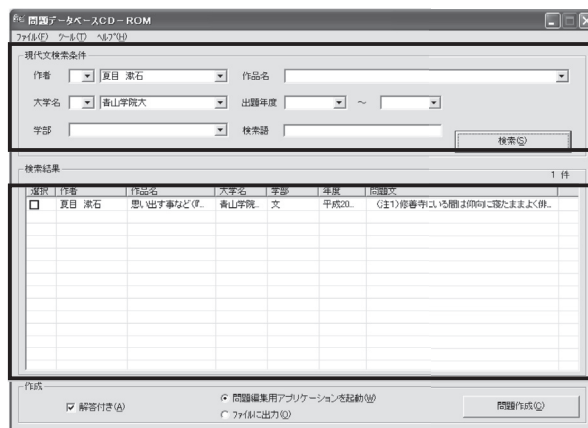
⇒目次：ヘルプファイルの目次を開きます。

⇒バージョン情報：当アプリケーションのバージョン情報を表示します。

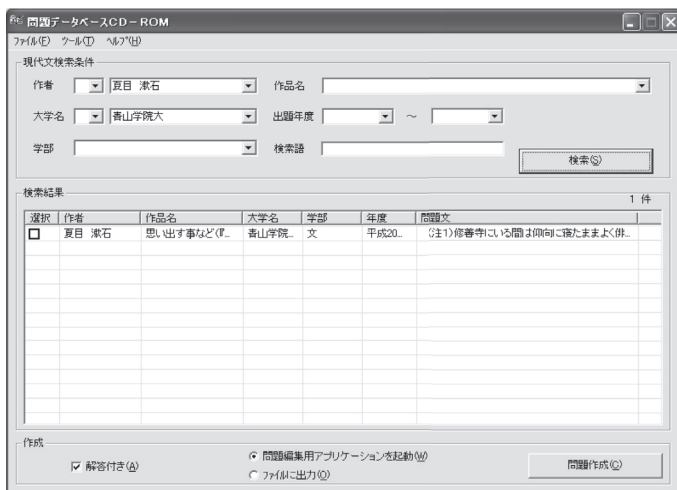
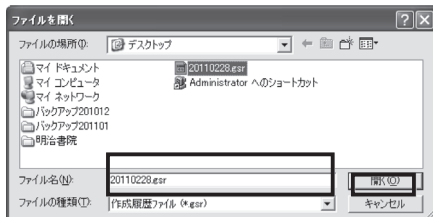
●ステップ２ ファイルメニューの説明

1．検索履歴を開く

ファイル→検索履歴を開くを選択することで、過去に保存した検索条件を一度に表示することが可能です。

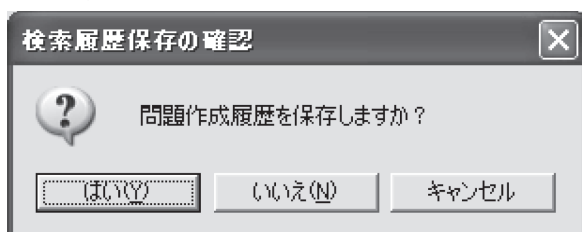
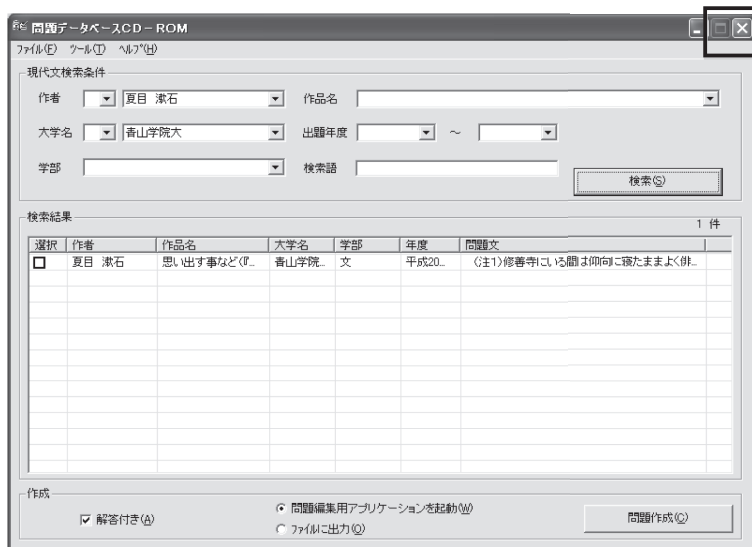
①ファイル→検索履歴を開くを選択します。

②検索履歴ファイルを選択します。

③保存した検索条件が表示され、検索結果も同時に表示されます。

2．検索履歴を保存

ファイル→検索履歴を保存を選択することで検索条件を保存することができます。

①ファイル→検索履歴を保存を選択します。

②任意の名称を設定し、開くボタンをクリックします。

※保存した検索条件は、「検索履歴を開く」を利用し、いつでも検索条件を開くことができます。

３．終了

ファイル→終了を選択することで当アプリケーションを終了することができます。

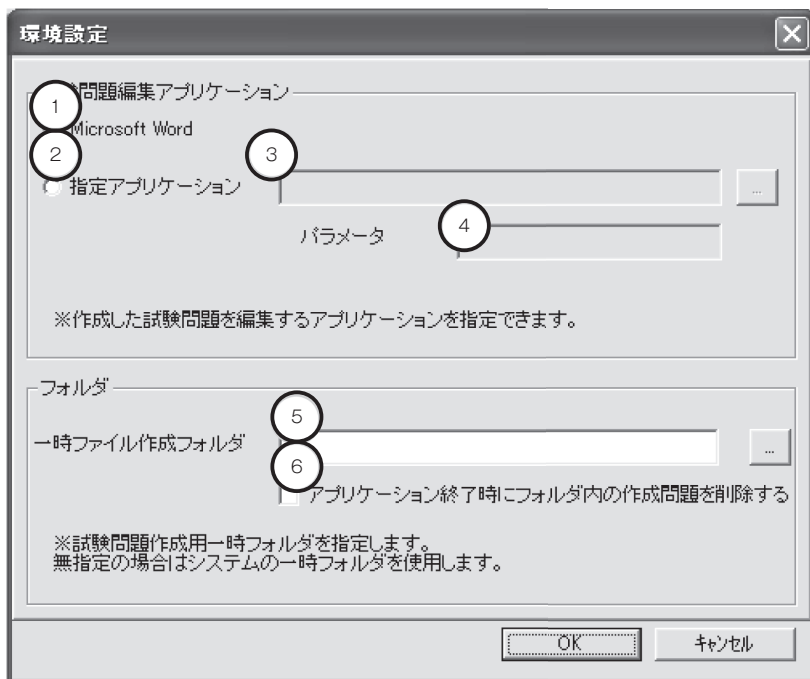
※画面右端「×」も同様の機能です。

検索履歴を保存を行っていない場合は上記メッセージが表示されます。

「はい」を選択した場合は「検索履歴を保存」ダイアログが表示された後にアプリケーションを終了し、「いいえ」を選択した場合はそのままアプリケーションを終了します。

「キャンセル」を選択した場合はアプリケーションを終了しません。

（問題データベースに戻ります。）

●ステップ３ ツールメニューの説明

１．環境設定

１…Microsoft Word：問題編集時にワードを利用する場合、こちらを選択します。

２…指定アプリケーション：ワード以外を利用する場合、こちらを選択します。

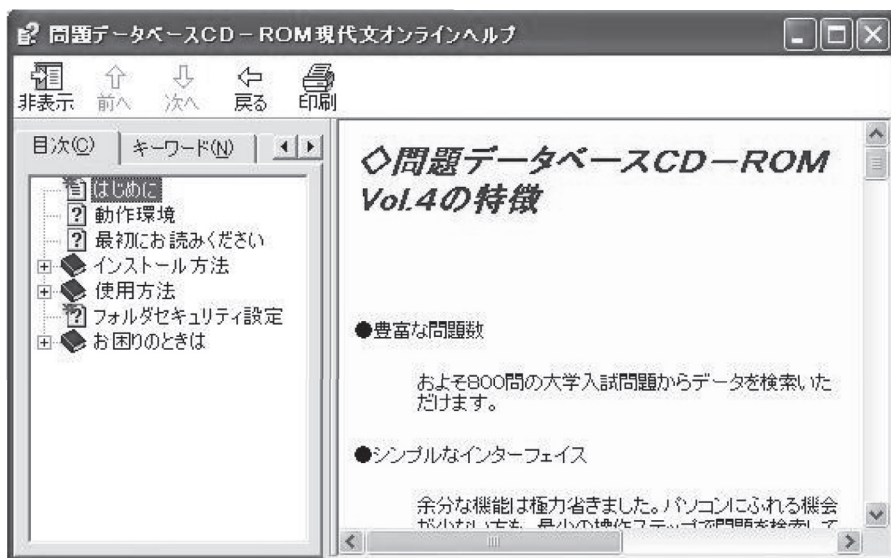
３…２を選択した場合、どの実行ファイルを用いて編集を行うかを指定します。

４…パラメータ：基本的には設定しません。

５…一時ファイル作成フォルダ：問題ファイルを一時的に保存するフォルダを指定します。

６…アプリケーション終了時にフォルダ内の作成問題を削除する：終了時に５を削除する場合、チェックします。

●ステップ４　ヘルプメニューの説明

ヘルプ→目次を選択することでヘルプファイルを表示することができます。

◇第４章　困ったときには

・ホームページでのご案内

明治書院ホームページでは「問題データベースＱ＆Ａ」として、よくあるご質問と回答を掲載しています。

http://www. meijishoin.co.jp

HOME ＞ 教科書・教材 ＞ 教科書トップ＞「問題データベースＱ＆Ａ」をご参照ください。

・「お客様センター」サポート

インストールや、操作方法などでお困りの際にはお客様センターフリーダイヤルまでご連絡ください。お電話にてサポートいたします。

また、メールでのご質問も随時受け付けております。

お気軽にご活用ください。

明治書院　お客様センター先生専用フリーダイヤル　0120-595-170（メイジハーコクゴがイーナマル）

メールアドレス　info@meijishoin.co.jp

◇第５章　基本的な情報

１．基本的な用語について

データベース

データベースとは、集めたデータを後から検索しやすいように分類・蓄積したものをいいます。本ソフトは過去に出題された様々な問題を１枚のCD-ROMに蓄積し、その中から必要とされる問題（または問題に関係する情報）を簡単に検索できるようにしました。

（この「データ（情報）ベース（基地)」という言葉は、第二次大戦後の米軍がそれぞれの基地に点在していた資料をひとつの基地に集約して、そこに行けばすべての情報が得られるようにしたことから誕生したといわれています。）

テキスト（＝プレーンテキスト）

テキスト（＝プレーンテキスト）とは、人が読み書きできる文字と、改行やタブなどの特定の記号で構成されたデータ形式です。

リッチテキスト

リッチテキストとは、単に文字が並ぶだけのテキストに、文字の色とサイズ･文字の配置といった簡単なレイアウト情報を追加したものです。

多くのワープロソフトで共通して読み書きが可能なデータ形式です。

本ソフトで検索した問題はリッチテキスト形式で保存することができます。

この形式によることで、ワープロソフト（「ワード」や「一太郎」）を使って簡単に問題プリントを印刷することができます。

ワープロとワープロソフト

ワープロ（＝ワードプロセッサ）とは、コンピュータで文章を入力・編集・印刷するためのシステムのことです。

そしてワープロソフトは、ワードプロセッサの機能を実現したソフトウェア（プログラム）のことで、日本では「ワード」と「一太郎」が多くの人に使われています。

バージョン

バージョンとは、主にソフトの改訂番号のことです。

数字が大きいほど新しいものであることを示しています。

「Windows」における「Vista（=6)」や「7」はバージョンを示したものです。

エディション

エディションとは、製品の提供形式をいいます。機能や性能に差をつけて同一製品を違うパッケージにしたときの、それぞれの形式のことです。

「Windows7」の場合、Home Premium や Professional など６つのエディションが用意されています。

（例えば Home Premium というエディションは、主に家庭で使用されることを前提にしたパッケージです。）

サービスパック（=SP）

サービスパックとは、主にマイクロソフトが使用している用語で、ソフトの修正プログラムをひとまとめにしたものです。

同社は、製品の発売後に（「Windows」などの発売後に）不都合が発見されると修正プログラムを提供しています。

そして定期的にそれらのプログラムを一つにまとめます。

このようしてまとめたパッケージをサービスパックと呼んでいます。最初にまとめたものを「サービスパック１（SP1)」、その後、新しく提供されるたびに２（SP2）・３（SP3）と数字を大きくしていくものです。

（例えば「WindowsXP」の入ったパソコンに「サービスパック３」をインストールした場合、「WindowsXP SP3」と呼び、それ以前の「WindowsXP」と区別します。）

本マニュアルでは、推奨スペック（パソコンの状態）を４ページに掲載していますが、その際に「SP2」や「SP3」と表示しています。

２．仕様

収録問題数内訳

現代文

問題数…758

作品数…684

著者数…484

大学数…134

古文

問題数…474

作品数…186

大学数…116

漢文

問題数…188

作品数…121

大学数…72

付録　現代文作品作者別作品一覧

阿川　弘之　　四十四年目のマンボウ航路（『阿川弘之全集　第二十巻』所収）
阿刀田　高　　菊の香り（『食べられた男』所収）
阿刀田　高　　殺し文句の研究
阿部　謹也　　「世間」論序説　西洋中世の愛と人格
阿部　謹也　　近代化と世間
阿部　昭　　贈り物（『阿部昭集第四巻』所収）
安藤　忠雄　　連戦連敗
安部　公房　　ヘビについてⅢ（『砂漠の思想』所収）
安部　公房　　ワラゲン考　（『笑う月』より）
会田　雄次　　日本人の意識構造
芥川　比呂志　　父の映像（『決められた以外のせりふ』に収録）
芥川　龍之介　　少年
芥川　龍之介　　星／鼻（侏儒の言葉）
芥川　龍之介　　葱（『芥川龍之介全集　3』所収）
芥川　龍之介　　文章（『芥川龍之介小説集 . 6』所収）
秋月　高太郎　　ありえない日本語
秋山　駿　　人生の検証
青木　奈緒　　チュニジアの虹（『くるみ街道』所収）
赤坂　憲雄　　地域遺産とは何か（「学士会会報」No.869 所収）
赤瀬川　原平　　千利休　無言の前衛
浅田　次郎　　霞町物語
浅野　裕一　　動物としての人間（「世界思想」2007 年春号所収）
相原　博之　　キャラ化するニッポン
朝倉　友海　　思考が言葉で変様するとき（松永澄夫編『言葉の働く場所』所収）
尼ヶ崎　彬　　ダンス・クリティーク
網野　善彦　　中世的世界とは何だろうか
有吉　佐和子　　地唄（『地唄・三婆　有吉佐和子作品集』所収）
有山　輝雄　　健康優良児（『戦時期日本のメディア・イベント』所収／世界思想社）
イ　ヨンスク　　「ことば」という幻影
イ　ヨンスク　　「国語」という思想
伊藤　たかみ　　貝からみる風景（『八月の路上に捨てる』所収）
伊藤　整　　若い詩人の肖像
井崎　正敏　　〈考える〉とはどういうことか？　思考・論理・倫理・レトリック
井崎　正敏　　倫理としてのメディア　公共性の装置へ
井上　達夫　　世論の専制から法の支配へ―民主主義と司法の成熟のために
井上　忠司　　「世間体」の構造
井上　靖　　あすなろ物語
磯田　光一　　勤勉革命のゆくえ（『新輯　近代の感情革命』所収）
磯田　光一　　思想としての東京
一川　誠　　体験される時間と客観的時間
岩井　宏實　　江戸の看板　粋な広告術
岩井　克人　　ヴェニスの商人の資本論
岩井　克人　　キャベツ人形の資本主義（『ヴェニスの商人の資本論』所収）
岩井　克人　　資本主義と「人間」（『二十一世紀の資本主義論』所収）
岩井　克人　　未来世代への責任―経済学の「論理」と環境問題の「倫理」―
岩松　了　　私のマエストロ（「文学界」二〇〇九年六月号掲載）
岩田　靖夫　　いま哲学とはなにか
岩田　靖夫　　神の痕跡
五木　寛之　　いまを生きるちから
今江　祥智　　ぼんぼん
今村　仁司　　精神の政治学
今田　高俊　　意味の文明学序説
今道　友信　　美について
今福　龍太　　ここではない場所　イマージュの回廊へ
今福　龍太　　音の襞、ことばの隈（「図書」二〇〇八年１１月号掲載）
市川　浩　　＜中間者＞の哲学
市川　浩　　見知らぬ顔（『＜私さがし＞と＜世界さがし＞身体芸術論序説』所収）
市野川　容孝　　思考のフロンティア　身体／生命
石井　桃子　　目っぱじき（『幼ものがたり』所収）
石黒　圭　　文章は接続詞で決まる
石川　啄木　　弓町より　食うべき詩（『時代閉塞の現状』所収）

著者	作品
石川　啄木	性急な思想
石田　衣良	青いエグジット（『約束』所収）
石田　佐恵子	有名性という文化装置
石田　秀実	死のレッスン
石母田　正	中世的世界の形成
池田　謙一	コミュニケーション形態の変化と世論の重層性を考える（雑誌「UP」2006年6月号所収）
池田　清彦	科学はどこまでいくのか
池内　了	疑似科学入門
猪木　武徳	自由と秩序―競争社会の二つの顔―
猪木　武徳	文芸にあらわれた日本の近代
猪木　武徳	勁い経済　知徳が不可欠
入不二　基義	足の裏に影はあるか？　ないか？
宇多　喜代子	山は大きな水のかたまり（「日本経済新聞」二〇〇七年一二月一六日夕刊掲載）
宇沢　弘文	社会的共通資本
宇野　浩二	子を貸し屋
宇野　重規	デモクラシーのモラルと秩序
宇野　重規	トクヴィル　平等と不平等の理論家
宇野　重規	プロジェクト　未来を＜待つ＞ために（「環」二〇〇九年夏号掲載）
宇野　邦一	詩と権力のあいだ
宇野　邦一	反歴史論
上田　閑照	宗教とは何か
上田　紀行	生きる意味
上田　篤	庭と日本人
植島　啓司	賭ける魂
内山　勝利	知の制度化を超える力（「世界思想」平成２１年春　所載）
内山　節	「学び」の時間と空間の再構成（『岩波講座　現代の教育Ⅰ　いま教育を問う』所収）
内山　節	「里」という思想
内山　節	怯えの時代
内山　節	挫折と危機のなかで（「図書」二〇〇九年六月号掲載）
内山　節	風土と哲学―日本民衆思想の基底へ―第八十二回
内田　義彦	作品としての社会科学
内田　樹	下流志向
内田　樹	昭和のエートス
内田　樹	態度が悪くてすみません――内なる他者との出会い
内田　樹	疲れすぎて眠れぬ夜のために
内田　芳明	風景とは何か
梅原　賢一郎	カミの現象学
梅森　直之	ベネディクト・アンダーソン　グローバリゼーションを語る
梅棹　忠夫	知的生産の技術
円満字　二郎	戦後日本　漢字事件簿（NHK知る楽『歴史は眠らない』所収）
遠藤　ケイ	暮らしの和道具
遠藤　周作	侍
江藤　淳	青年正岡常規（『筑摩現代文学大系』第七巻月報所収）
奥本　大三郎	蜂になった人間（岩波文庫編集部編『読書のすすめ特別編』所収）
岡　真理	「文化が違う」とは何を意味するのか（「大航海」３８号掲載）
岡原　正幸	求ム、癒されるべき身体（鷲田清一他編『身体をめぐるレッスン３　脈打つ身体』所収）
岡谷　公二	島の精神誌
岡田　喜秋	思索の旅路
岡田　暁生	音楽の聴き方
岡田　暁生	音楽の聴き方　聴く型と趣味を語る言葉
岡田　敬司	人間形成にとって共同体とは何か
岡田　節人	ヒトと生きものたちの科学のいま
岡田　美智男	コミュニケーションに埋め込まれた身体性（「月刊　言語」2008年6月号ｐ56～63所収）
岡部　勉	合理的とはどういうことか
岡本　かの子	家霊
岡本　かの子	家霊（『岡本かの子全集５』）
岡本　綺堂	岡本綺堂随筆集
岡本　綺堂	春の修善寺（『岡本綺堂随筆集Ⅱ』所収）
桶谷　秀昭	文学と歴史の影
小笠原　泰	なんとなく、日本人
小栗　康平	時間をほどく
小原　信	孤独と連帯
小川　国夫	一房の葡萄
小川　国夫	未完の少年像（『止島』所収）

小川　洋子　　キリコさんの失敗（『偶然の祝福』所収）
小川　洋子　　ひよこトラック（『海』所収）
小川　洋子　　果汁（『寡黙な死骸　みだらな弔い』所収）
小川　洋子　　犬のしっぽを撫でながら
小川　洋子　　細分化（『博士の本棚』所収）
小野　十三郎　　想像力（『詩論＋続詩論＋想像力＝小野十三郎』所収）
太田　省一　　開拓者の時代―七〇年代バラエティというフロンティア（『テレビだョ！全員集合　自作自演の 1970 年代』所収）
太田　省吾　　動詞の陰翳
大岡　昇平　　現代小説作法
大岡　信　　詩をよむ鍵
大屋　雄裕　　自由とは何か　監視社会と「個人」の消滅
大熊　孝　　増補　洪水と治水の河川史
大江　健三郎　　「異化」された未知の側面（「朝日新聞」＜定義集＞二〇〇九年五月十九日朝刊掲載）
大江　健三郎　　言い難き嘆きもて
大森　荘蔵　　知覚風景と科学的世界像（『大森荘蔵著作集　第三巻　言語・知覚・世界』所収）
大森　荘蔵　　知識と学問の構造
大森　荘蔵　　流れとよどみ―哲学断章―
大村　昭人　　医療立国
大庭　健　　いま、働くということ
大庭　健　　私はどうして私なのか
大庭　健　　善と悪――倫理学への招待
大野　晋　　日本語練習帳
大澤　真幸　　ナショナリズムの由来
大澤　真幸　　資本主義のパラドックス　楕円幻想
大澤　真幸　　不可能性の時代
大澤　真幸　　文明の内なる衝突
尾崎　紅葉　　金色夜叉
落合　淳思　　甲骨文字に歴史をよむ
加賀　乙彦　　雨の庭
加賀野井　秀一　　日本語は進化する
加藤　周一　　手のひらのなかの宇宙
加藤　周一　　日本文化における時間と空間
加藤　周一　　翻訳のこと（『現代日本私註』所収）
加藤　周一　　羊の歌
加藤　尚武　　二十一世紀のエチカ　応用倫理学のすすめ
加藤　節　　政治学を問いなおす
加藤　典洋　　グッバイ・ゴジラ、ハロー・キティ（「群像」２００７年４月号所収）
河合　隼雄　　日本人と日本社会のゆくえ
河本　英夫　　哲学、脳を揺さぶる―オートポイエーシスの練習問題
角田　光代　　お金と沈黙（「春秋」２００７年６月号所収）
角田　光代　　ときに示唆する旅（『いつも旅のなか』所収）
笠井　潔　　探偵小説論序説
梶井　基次郎　　城のある町にて
梶井　基次郎　　雪後（梶井基次郎：1901-1932 ）
梶井　基次郎　　筧の話
梶井　厚志　　お疲れさま（『ダイアモンド・オンライン　梶井厚志　言葉の戦略的思考』）http://diamond.jp/series/kajii/10013/
梶井　厚志　　コトバの戦略的思考『牛の鼻ぐり』
萱野　稔人　　権力の読みかた
苅谷　剛彦　　大衆教育社会のゆくえ
苅部　直　　移りゆく 「教養」
亀井　俊介　　わがアメリカ文学誌
亀井　勝一郎　　古典的人物（『亀井勝一郎全集　第１５巻』所収）
金子　みすゞ　　私と小鳥と鈴と
金森　修　　この瞬間を歴史に刻む
景井　充　　アイデンティティの行方（佐藤喜一編著『〈方法〉としての人間と文化』所収）
桂　英史　　東京ディズニーランドの神話学
香山　リカ　　＜私＞の愛国心
狩野　敏次　　住居空間の心身論―「奥」の日本文化（「日本学」H4・12）
春日　武彦　　幸福論
菅野　覚明　　詩と国家 「かたち」としての言葉論
菅野　仁　　ジンメル・つながりの哲学
菅野　仁　　友だち幻想　人と人の〈つながり〉を考える

川崎　徹	彼女は長い間猫に話しかけた
川上　弘美	ブラジルのかぼちゃ
川上　弘美	ゆっくりさよならをとなえる
川上　弘美	長い夜の紅茶（「Ｙｏｍ　Ｙｏｍ」2006年12月７日号）
川瀬　貴也	「まつろわぬもの」としての宗教
川田　順造	もう一つの日本への旅
川田　順造	母の声、川の匂い
唐木　順三	疎外される言葉（『唐木順三全集　第十二巻』）
柏木　博	日用品のデザイン思想
姜　尚中	悩む力
岸田　国士	「ハイカラ」ということ（『岸田国士全集３０』所収）
岸本　美緒	比喩と「中国社会論」（「ＵＰ」平成１８・１２所収）
喜志　哲雄	喜劇の手法　笑いのしくみを探る
喜納　育江	ネイティヴなるもの（今福龍太編『２１世紀文学の創造⑤　境域の文学』所収）
貴志　祐介	偽ドキュメンタリーの真実（「日本経済新聞」平成２１．６．２８）
鬼界　彰夫	「私」はなぜ存在するのか―ウィトゲンシュタインから原制度的世界へ（「ラチオ」０５号）
菊池　寛	入れ札（『菊池寛全集第三巻』ほか所収）
金原　省吾	東洋表象論
木岡　伸夫	風景の中の時／時の中の風景（「世界思想」平成２１年春３５号所収）
木下　是雄	日本語の思考法
木村　敏	あいだ
木村　敏	時間と自己
木村　敏	自分ということ
木俣　元一、原野　昇	芸術のトポス
久島　茂	はかり方の日本語
久保田　淳	「女人遁世」（『久保田淳著作選集』第三巻所収）
久保田　淳	富士山の文学
窪田　空穂	老境のよろこび（『窪田空穂』〈空穂十二話〉第六巻所収）
熊田　淳美	三大編纂物　群書類従・古事類苑・国書総目録の出版文化史
熊野　純彦	レヴィナス入門
熊野　純彦	差異と隔たり
熊野　純彦	差異と隔たり　他なるものへの倫理
栗原　彬	かんけりの政治学（『政治のフォークロア　多声体的除法』所収）
栗山　民也	演出家の仕事
桑子　敏雄	感性の哲学
桑子　敏雄	環境の哲学
桑子　敏雄	理想と決断　哲学の新しい冒険
桑島　巌	高血圧の常識はウソばかり
鯨岡　峻	〈育てられる者〉から〈育てる者〉へ
黒井　千次	老女と自転車（「星からの１通話」ｐ47～49）
黒宮　一太	ネイションとの再会
黒住　真	複数性の日本思想
車谷　長吉	業柱抱き
倉石　忠彦	民俗都市の人びと
草山　こずえ	世界は私に触れる　（『彫刻に触れるとき』所収）
計見　一雄	脳と人間―大人のための精神病理学
玄田　有史	データが語る日本の希望（東大社研・玄田有史・宇野重規編『希望学１ 希望を語る』所収）
越川　倫明	個人性と意想
河野　哲也	〈心〉はからだの外にある　「エコロジカルな私」の哲学
河野　哲也	善悪は実在するか
近藤　浩章	大人は誰もが昔は子どもだった
幸田　文	えぞ松の更新（『台所のおと　みそっかす』所収）
幸田　文	ちぎれ雲
幸田　文	台所のおと（『台所のおと　みそっかす』所収）
幸田　文	父
幸田　露伴	急ぐ勿れ（露伴全集　第20巻p20-23）
香西　秀信	事実は「配列」されているか？（『レトリック探求法』所収）
香西　秀信	論より詭弁　反論的思考のすすめ
鴻上　尚史	「空気」と「世間」
小坂井　敏晶	責任　――責任概念と近代個人主義（「環」３８号掲載）
小坂井　敏晶	責任という虚構
小松　和彦	妖怪学新考
小沼　純一	介入する言葉、芸術へと（『岩波講座　哲学０７　芸術／創造性の哲学』の月報に掲載）
小菅　正夫	〈旭山動物園〉革命

小町谷　朝生	視覚の文化
小浜　逸郎	エロス身体論
小浜　逸郎	なぜ人を殺してはいけないのか
小浜　逸郎	言葉はなぜ通じないのか
小林　秀之、神田　秀樹	「法と経済学」入門
小林　秀雄	「骨董」（『モオツァルト・無常という事』所収）
小林　秀雄	小説（『小林秀雄全集』第十一巻所収）
小林　道憲	生命の哲学　生きるとは何かということ
小林　道夫	科学の世界と心の哲学
小林　隆	現代方言の正体（「図書」２００７年１月号 NO.693 号所収）
小林　傳司	トランス・サイエンスの時代　科学技術と社会をつなぐ
小林　傳司	誰が科学技術について考えるのか―コンセンサス会議という実験
佐々木　毅	政治の精神
佐々木　毅	民主主義という不思議な仕組み
佐々木　健一	タイトルの魔力―作品・人名・商品のなまえ学
佐々木　健一	美学への招待
佐佐木　幸綱	底より歌え
佐々木　美加、岡本　真一郎	ＣＭＣと嘘（仁平義明著「現代のエスプリ 481 号　嘘の臨床・嘘の現場」 嘘を判別する）
佐藤　健二	歴史と出会い、社会を見いだす（苅谷剛彦編著『いまこの国で大人になること』所収）
佐藤　俊樹	00 年代の格差ゲーム
佐藤　俊樹	桜が創った「日本」
佐藤　春夫	蝗の大旅行（『定本佐藤春夫全集第４巻』所収）
佐藤　信夫	レトリックの記号論
佐藤　信夫	レトリック感覚
佐藤　信夫	わざとらしさのレトリック
佐藤　正英	小林秀雄―近代日本の発見
佐藤　多佳子	一瞬の風になれ
佐藤　琢三	「間違い」は本当に間違いか――文法研究から見た「間違い」（雑誌「日本語学」二〇〇九年七月号掲載）
佐伯　眞一	戦場の精神史
斎藤　環	思春期ポストモダン　成熟はいかにして可能か
斎藤　慶典	知ること、黙すること、遣り過ごすこと　存在と愛の哲学
斎藤　慶典	哲学がはじまるとき
斎藤　純一	自由
坂口　安吾	ＦＡＲＣＥに就いて
坂口　安吾	娯楽奉仕の心構え――酔ってクダまく職人が心構えを説くこと――（『坂口安吾全集第５巻』所収）
坂口　安吾	手紙雑談
坂口　安吾	茶番によせて（「文體」一九三九年四月号掲載）
坂口　安吾	傲慢な眼（『坂口安吾全集』所収）
坂村　健	ユビキタスとは何か――情報・技術・人間
坂部　恵	風の通い路（『坂部恵集　5』 Ⅳ所収）
坂本　多加雄	坂本多加雄選集Ｉ　近代日本精神史
阪本　俊生	ポスト・プライバシー
笹原　宏之	訓読みのはなし　漢字文化圏の中の日本語
三宮　真智子	情報に対する合理的判断力を育てる教育実践研究の必要性
酒井　潔	自我の哲学史
酒井　直樹	死産される日本語・日本人
酒井　邦嘉	科学者という仕事
酒井　邦嘉	言語の脳科学
真田　信治	方言は気持ちを伝える
沢田　允茂	言語と人間
椹木　野衣	日本・現代・美術
澤地　久枝	わたしが生きた「昭和」
齋藤　孝	コミュニケーション力
齋藤　孝	座右のニーチェ
齋藤　孝	息の人間学
齋藤　孝	退屈力
塩川　伸明	民族とネイション
下條　信輔	ラッピング・ペーパー　カルチャー（「ちくま」二〇〇九年一月号掲載）
四方　義啓	立体交差に根ざした日本語
志賀　直哉	灰色の月
志村　幸雄	世界を制した「日本的技術発想」
柴田　宵曲、森　銑三	読む場所

著者	作品
柴田　陽弘	風景論入門（柴田陽弘編『風景の研究』所収）
重松　清	かさぶたまぶた（『ビタミンＦ』所収）
重松　清	よもぎ苦いか、しょっぱいか（『ツバメ記念日　季節風春』所収）
庄野　潤三	プールサイド小景
新宮　一成	無意識の組曲　精神分析的夢幻論
新谷　尚紀	なぜ日本人は賽銭を投げるのか
神野　直彦	「希望の島」への改革　分権型社会をつくる
神野　直彦	人間回復の経済学
辛　淑玉	悪あがきのすすめ
清水　義範	わが子に教える作文教室
清水　真木	友情を疑う
清水　博	場の思想
清水　良典	文学の未来
島崎　藤村	朝飯（『島崎藤村全集』　３　所収）
島崎　敏樹	まぼろしの旅（「観光」1969 年 1 月号所収）
島尾　敏雄	ヤポネシアと琉球弧（『沖縄文学全集』第十八巻　所収）
島尾　敏雄	硝子障子のシルエット
白井　健策	天声人語の七年
白洲　正子	遊鬼―わが師、わが友―〈お公家さん〉
澁澤　龍彦	玩具のシンボル価値（『新版遊びの百科全書　４　玩具館』所収）
諏訪　哲二	オレ様化する子どもたち
須藤　春夫	「テレビ」に残されたもの　参加するメディアとして
杉田　敦	政治への想像力
杉本　秀太郎	日本の観光魅力（『ひっつき虫』所収）
菅原　和孝	汝、期待するなかれ
末木　文美士	他者／死者／私
鈴木　謙介	ウェブ社会の思想　〈遍在する私〉をどう生きるか
鈴木　孝夫	「山かけ法の論理」（『ことばの人間学』所収）
鈴木　孝夫	このままでは手遅れになる　子供たちに「心の母港」を
鈴木　孝夫	新・武器としてのことば
鈴木　大拙	東洋文化の根底にあるもの（『東洋的な見方』所収）
鈴木　貞美	日本人の生命観
瀬木　慎一	名画はなぜ心を打つか
青来　有一	爆心地の夏
舘野　泉	北欧の光（『星にとどく木　世界を旅するピアニスト』所収）
橘木　俊詔	アメリカ型不安社会でいいのか―格差・年金・失業・少子化問題への処方せん
高階　秀爾	20 世紀美術
高橋　英夫	ミクロコスモス―松尾芭蕉に向って
高橋　英夫	司馬遼太郎の葉書―大阪の人（一）（『京都で、本さがし』所収）
高橋　英夫	神を見る　神話論集 1
高橋　英夫	神を読む　神話論集　２
高橋　三千綱	五月の傾斜（丸山健二著『イヌワシのように』所収）
高橋　透	倫理の根底を揺さぶる　ニューロ･エシックスと再生医療（『現代思想』2008 年 6 月号所収）
高橋　裕	地球の水が危ない
高山　宏	綺想の饗宴
高山　樗牛	非国民的小説を難ず
高村　光太郎	蝉の美と造型（『昭和文学全集第 4 巻』所収）
高島　俊男	座右の名文　ぼくの好きな十人の文章家
高木　恭造	方言詩集　まるめろ
多田　富雄	独酌余滴
多木　浩二	写真論集成
多木　浩二	都市の政治学
太宰　治	黄金風景（ちくま日本文学 008）
太宰　治	作家の手帖（「太宰治全集 6」所収）
瀧　精一	文人画概論
谷崎　潤一郎	谷崎潤一郎「旅のいろいろ」（『陰翳礼讃』）
谷川　健一	魔の系譜（『谷川健一全集』第十二巻　民俗四　所収）
竹田　篤司	明治人の教養
竹内　整一	日本人はなぜ「さようなら」と別れるのか
竹内　敏晴	思想する「からだ」
竹内　洋	立身出世主義
田村　隆一	僕の憂き世風呂
田中　克彦	ことばとは何か　言語学という冒険
田中　淳夫	割り箸はもったいない？

田中　美知太郎　　ロゴスとイデア
田中　美知太郎　　学問論（学問論　現代における学問のあり方）
田仲　康博　　空間と表象の暴力（阿部潔編『空間管理社会　監視と自由のパラドックス』）
俵　万智　　よつ葉のエッセイ
武田　泰淳　　滅亡について
武満　徹　　Mirror（『エッセイ選』所収）
立元　幸治　　「こころ」の出家
遅塚　忠躬　　フランス革命～歴史における劇薬
中馬　清福　　新聞は生き残れるか
月本　洋　　日本人の脳に主語はいらない
津島　佑子　　鳥の涙（『私』所収）
津島　佑子　　物語る声を求めて（『東洋文庫ガイドブック』所収）
坪井　善明　　ヴェトナム新時代─-「豊かさ」への模索
坪内　稔典　　俳句が見つけた柿（「図書」二〇〇九年七月号掲載）
坪内　逍遙　　小説神髄
鶴ヶ谷　真一　　書を読んで羊を失う
鶴見　太郎　　柳田国男入門
寺田　寅彦　　芝刈
寺田　寅彦　　蓄音機（『寺田虎彦随筆集　第二巻』所収 ）
寺田　寅彦　　俳句と地球物理
遠山　一行　　会話の音楽
外山　滋比古　　古典論
外山　滋比古　　添削の思想（『省略の文学』所収）
外山　滋比古　　読みの整理学
外山　滋比古　　日本語の作法
外山　滋比古　　日本語の論理
外山　滋比古　　文化的省略（「月刊言語」S60・12 所収）
戸坂　潤　　「輿論」を論ず（『増補　世界の一環としての日本２』所収）
戸田　京子　　カルト問題における心理学─社会真理学から見えるもの・臨床心理学から見えるもの（『現代のエスプリ別冊　カルト心理臨床の視点から』所収）
土居　健郎　　甘えの構造
富山　太佳夫　　空から女が降ってくる
永井　荷風　　江戸演劇の特徴（『江戸芸術論』所収）
永井　荷風　　濹東綺譚
永井　均　　マンガは哲学する
夏目　漱石　　思い出す事など（『漱石全集』第 12 巻ほか所収）
夏目　漱石　　硝子戸の中
夏目　漱石　　道草
夏目　漱石　　彼岸過迄
中井　久夫　　日本語文を書くための古いノート（「図書」二〇〇九年五月号掲載）
中井　久夫　　臨床瑣談
中原　中也　　亡弟
中西　進　　詩心
中西　進　　日本人と桜
中西　進　　日本人の忘れもの２
中川　理　　環境問題としての風景論（『シリーズ　都市・建築・歴史１０　都市・建築の現在』所収）
中村　光夫　　青春と知性　「読書について」（『中村光夫全集台１３巻』所収）
中村　光夫　　想像力について
中村　光夫　　日本の近代小説
中村　桃子　　〈性〉と日本語　ことばがつくる女と男
中村　桃子　　「女ことば」はつくられる
中村　美知夫　　チンパンジー　ことばのない彼らが語ること
中村　敏雄　　オフサイドはなぜ反則か
中村　明　　悪文─裏返し文章読本
中村　雄二郎　　インフォームド・コンセント（『術語集Ⅱ』所収）
中村　雄二郎　　記憶（『術語集Ⅱ』所収）
中村　雄二郎　　共通感覚論
中村　雄二郎　　述語集
中村　雄二郎　　色という最後の秘境（『デジタルな時代』所収）
中村　雄二郎　　哲学の現在─生きること考えること
中村　雄二郎　　臨床の知とは何か
中村　良夫　　風景学入門
中沢　けい　　楽隊のうさぎ
中谷　孝雄　　春

中田　基昭	感受性を育む　現象学的教育学への誘い
中島　敦	かめれおん日記
中島　敦	文字禍（『山月記・李陵』岩波ほか）
仲正　昌樹	「不自由」論
長嶋　有	瑞枝さんの原付（『夕子ちゃんの近道』所収）
内藤　高	明治の音
内藤　朝雄	「ニート」って言うな！
南木　佳士	天地有情
南木　佳士	冬物語
南木　佳士	穂高山（「文学界」２００６年１月号所収）
波平　恵美子	主張する「身体」と注文の多い「遺体」（『身体をめぐるレッスン４』所収）
新田　一郎	中世に国家はあったか
新田　博衛	詩学序説
西谷　修	世界史の臨界
西尾　光一	中世説話文学論
西本　郁子	時間意識の近代
丹生谷　貴志	映画／ニヒリズム／自由　（『日米映画戦』所収）
野家　啓一	歴史を哲学する
野口　恵子	かなり気がかりな日本語
野口　武彦	石川淳論
野崎　歓	赤ちゃん教育
野中　健一	虫食む人々の暮らし
野内　良三	レトリックのすすめ
野内　良三	偶然を生きる思想
野平　一郎	音楽と時、そして瞬間と偶然（「思想」二〇〇九年第三号掲載）
野矢　茂樹	語りえぬものを語る（「本」二〇〇九年一月号掲載）
野矢　茂樹	他者の声　実在の声
野矢　茂樹	哲学・航海日誌
野矢　茂樹	未来は存在しない（『他者の声　実在の声』）
花田　清輝	復興期の精神
橋元　良明	聞くことを忘れた現代社会（「言語」一九九六年二月号掲載）
橋本　治	小林秀雄の恵み
橋本　治	増補　浮上せよと活字は言う
橋本　努	自由に生きるとはどういうことか
原　研哉	白
原　広司	境界論（大江健三郎・中村雄二郎・山口昌男編『叢書　文化の現在８　交換と媒介』所収）
原　広司	空間〈機能から様相へ〉
原　克	流線形シンドローム
原田　宗典	レフェリーの勝利（『人の短編集』）
長谷川　郁夫	記憶の中の本（『藝文往来』所収）
長谷川　一	アトラクションの日常
長谷川　宏	ことばをめぐる哲学の冒険
長谷川　宏	高校生のための哲学入門
長谷川　宏	高校生のための哲学入門（第６章「芸術を楽しむ」）
長谷川　摂子	『ウソ』『マジ』考（『とんぼの目玉』所収）
長谷川　櫂	和の思想
長谷川　眞理子	科学の目　科学のこころ
馬場　あき子	山羊小母たちの時間（『日曜日の随想』所収）
馬場　あき子	秋霜のころ（『ベスト・エッセイ　二〇〇七老いたるいたち』所収）
馬場　公彦	「ビルマの竪琴」をめぐる戦後史
畠　弘己	場面とことば
葉山　嘉樹	氷雨
林　達夫	歴史の暮方（『林達夫評論集』所収）
干刈　あがた	姉妹の部屋への鎮魂歌（『ホームパーティー』所収）
久間　十義	萌え（「日本経済新聞」二〇〇九年六月一四日文化欄掲載）
東　百道	朗読の理論
日高　敏隆	人間についての寓話
日野　啓三	書くことの秘儀
日野　啓三	都市という新しい自然
樋口　聡	身体教育の思想
平子　義雄	公共性のパラドックス
平川　克美	株式会社という病
平川　克美	経済成長という病
平野　啓一郎	作者として、読者として（『読書という体験』所収）

平野　啓一郎	文明の憂鬱
廣瀬　通孝	ヒトと機械のあいだ
古井　由吉	ひととせの
古井　由吉	始まりの言葉
古井　由吉	西念は黙って寝たか（「海燕」1993 年 4 月号）
古井　由吉	先導獣の話（『古井由吉自選短篇集　木犀の日』所収）
古井　由吉	辻占（佐藤愛子編『日本の名随筆 82 占』所収）
深澤　真紀	思わず使ってしまうおバカな日本語
藤井　淑禎	「天城越え」は「伊豆の踊子」をどう超えたか（『清張　闘う作家』）
藤井　貞和	言葉と戦争
藤原　帰一	戦争を記憶する　広島・ホロコーストと現在
藤原　成一	風流の思想
藤原　智美	検索バカ
藤森　照信	建築史的モンダイ
藤沢　周平	一茶
藤沢　周平	逆軍の旗
藤沢　令夫	いま「自然」とは（岩波講座『自然とは　転換期における人間』所収）
藤谷　秀	あなたが「いる」ことの重み
藤田　省三	松に聞け――現代文明へのレクイエム（『藤田省三著作集　1』所収）
藤田　省三	精神史的考察
藤田　省三	全体主義の時代経験
藤平　春男	歌論の研究（『藤平春男著作集〈第 3 巻〉歌論研究 1』）
藤本　一勇	思考停止の安楽主義
二葉亭　四迷	平凡
布施　英利	美術の基盤としての人体（「言語」二〇〇九年三月号掲載）
福岡　伸一	生物と無生物のあいだ
福岡　伸一	動的平衡――生命はなぜそこに宿るのか
福沢　諭吉	学問之独立（『福沢諭吉著作集　第 3 巻』所収）
福沢　諭吉	福翁自伝
福田　和也	イデオロギーズ
福田　和也	甘美な人生
福田　恆存	自由について（『私の幸福論』所収）
別宮　貞徳	戦後日本人の忘れもの（レジャー・アニマルの元凶）（『「あそび」の哲学』所収）
細馬　宏通	絵はがきの時代
星野　智幸	ファンタジーの街
保坂　和志	エコロジーの向こうにあるもの（『途方にくれて、人生論』所収）
保坂　和志	小説の自由
穂積　陳重	復讐と法律
堀江　敏幸	バン・マリーへの手紙
堀江　敏幸	火事と沈黙（『バン・マリーへの手紙』所収）
堀江　敏幸	回送電車主義宣言（『回送電車』所収）
堀江　敏幸	煉瓦工場の退屈（『バン・マリーへの手紙』所収）
丸山　健二	尽きない文学の天空
丸山　健二	夜釣り（『イヌワシのように』所収）
丸山　眞男	ある自由主義者への手紙（『丸山眞男全集　第四巻』所収）
丸山　眞男	人間と政治（『丸山眞男集　第三巻』所収）
丸山　眞男	忠誠と反逆
丸田　一	「場所」論　ウェブのリアリズム、地域のロマンチシズム
松井　今朝子	「常識」のはなし
松浦　啓一	魚は陸から離れられない（「ＵＰ」二〇〇九年八月号掲載）
松浦　寿輝	かつて授業は「体験」であった（「UP」2007 年 5 月号所収）
松浦　寿輝	一であることの抒情　寺山修司（『物質と記憶』所収）
松岡　正剛	フラジャイル
松宮　秀治	芸術崇拝の思想　―政教分離とヨーロッパの新しい神
松原　隆一郎	豊かさの文化経済学
松浪　信三郎	「哲学そのもの」でない哲学（田中未知太郎編『哲学そのもの』所収）
真木　悠介	気流の鳴る音――交響するコミューン
正高　信男	考えないヒト
前田　愛	近代読者の成立
前田　英樹	言葉と在るものの声
前田　英樹	独学の精神
増田　みず子	花
増田　みず子	親からの頼まれごと（「日本経済新聞」二〇〇七年二月一八日掲載）
増田　進	「生命を守る村」自戦記（『沢内村奮戦記』所収）

増田　聡	電子楽器の身体性——テクノ・ミュージックと身体の布置（山田陽一編『音楽する身体——“わたし”へと広がる響き』所収）
宮　柊二	とりとめもない記（『宮柊二全集　6』所収）
宮下　志朗	作者の権利、読者の権利、そして複製の権利（「思想」2009年第6号掲載）
宮元　啓一	超ロジカルな人々の国インド（選書メチエ編集部編『異文化はおもしろい』所収）
宮沢　賢治	風の又三郎（『宮沢賢治全集　7』所収）
宮島　喬	文化と不平等—社会的アプローチ—
宮本　輝	力（『五千回の生死』所収）
港　千尋	見知らぬ乗客のための写真の歴史（『映画と写真は都市をどう描いたか』所収）
港　千尋	新編　第三の眼
三浦　綾子	青い棘
三浦　綾子	続泥流地帯
三浦　雅士	身体の零度
三浦　雅士	漱石　母に愛されなかった子
三浦　展	消費の物語の喪失と、さまよう「自分らしさ」（上野千鶴子編『脱アイデンティティ』所収）
水村　美苗	世界中から「国語」がなくなる日（「中央公論」二〇〇九年三月号掲載）
水村　美苗	日本語が亡びるとき
水村　美苗	日本語が亡びるとき——英語の世紀の中で
水谷　静夫	「言葉を選ぶ」（『新版　悪文』所収）
向井　周太郎	生とデザイン かたちの詩学Ｉ
室井　尚	哲学問題としてのテクノロジー
村井　実	「善さ」の構造
村上　陽一郎	安全学
村上　陽一郎	文明のなかの科学
村上　陽一郎	万能細胞研究—科学の現状に憂慮
村田　喜代子	匂いガラス（『街物語』〈北九州〉所収）
目取真　俊	ブラジルおじいの酒（『魂込め』所収）
最上　敏樹	いま平和とは
最上　敏樹	国境なき平和に
守本　順一郎	日本思想史の課題と方法
森　一郎	源氏物語生成論　局面集中と継起的展開
森　毅	おかあさんの部屋Ｉ（『チャランポランのすすめ』〈数学者のぷろむなあど——文化としての遊び〉の全文）
森　毅	魔術から数学へ
森　政稔	変貌する民主主義
森　鷗外	演劇改良論者の偏見に驚く（『森鷗外全集第２２巻』他所収）
森　鷗外	礼儀小言（鷗外全集 . 第 26 巻 岩波書店）
森岡正芳	語りと騙りの間
森下　伸也	逆説思考
森田　良行	日本語の視点
森本　哲郎	サムライ・マインド
森本　哲郎	文明の主役
森本　和夫	沈黙の言語
茂木　健一郎	クオリア入門
茂木　健一郎	化粧する脳
茂木　健一郎	思考の補助線
茂木　健一郎	疾走する精神
茂木　健一郎	心を生み出す脳のシステム
茂木　健一郎	多様性を科学する（『中央公論』平１９．８所収）
茂木　健一郎	脳のなかの文学
茂木　健一郎	欲望する脳
毛利　衛	普遍性追求　新たな発想で
安丸　良夫	日本の近代化と民衆思想
安田　雅弘	《演劇的知》について（「思想」2007年５月号所収）
山極　寿一	食というコミュニケーション（「大航海」67号所収）
山極　寿一	暴力はどこからきたか　人間性の起源を探る
山口　昌男	いじめの記号論
山崎　正和	混沌からの表現
山崎　正和	世紀を読む
山崎　正和	世紀を読む（初出は「一冊の本」2006年11月号）
山崎　正和	装飾とデザイン
山崎　正和	物神崇拝と動物愛護ののちに
山崎　正和	文明としての教育
山崎　正和	変革と情報　日本史のしくみ

山崎　豊子	沈まぬ太陽（二）アフリカ編・下
山森　亮	ベーシック・インカム入門
山折　哲雄	花鳥諷詠　高浜虚子の「刀刃段々壊」（「文藝春秋」2004・9月臨時増刊「和の心　日本の美」所収
山折　哲雄	生と死の間に老い、病
山折　哲雄	日本人の顔　図像から文化を読む
山竹　伸二	「本当の自分」の現象学
山田　規畝子	それでも脳は学習する
山田　昌弘	希望格差社会とやる気の喪失（「中央公論」2005・４月号）
山田　昌弘	新平等社会「希望格差」を超えて
山田　登世子	贅沢の条件
山本　雅男	ヨーロッパ「近代」の終焉
山本　七平	指導力
山本　周五郎	ちいさこべ（『少年少女日本文学館　１５　２１世紀版』）
山本　信	形而上学の可能性
矢田部　英正	美しい日本の身体
矢野　智司	贈与と交換の教育学
柳　宗悦	漢薬の能書（『柳宗悦全集　著作篇　第１９巻　随筆Ⅲ』所収）
柳沼　重剛	書き言葉について（「図書」２００１年４月号『語学者の散歩道』所収）
柳田　邦男	「気づき」の力　生き方を変え、国を変える
柳田　邦男	壊れる日本人　ケータイ・ネット依存症への告別
柳田　邦男	言葉の力、生きる力
柳田　國男	明治大正史　世相編
湯浅　博雄	他者と共同体
ヨコタ村上　孝之	色男の研究
吉田　秀和	音楽展望（「朝日新聞」 二〇〇九年一月 . 二四日朝刊掲載）
吉田　秀和	荷風を読んで（『吉田秀和全集　１０』所収）
吉田　千秋	もうひとつの価値観
吉本　光宏	イメージの帝国／映画の終り
吉本　隆明	読書の方法
米原　万里	通訳と翻訳の違い（『米原万里の「愛の法則」』所収）
与謝野　晶子	人及び女として
養老　孟司	いちばん大事なこと
養老　孟司	ぼちぼち結論
養老　孟司	死の壁
養老　孟司	身体の文学史
養老　孟司	唯脳論
養老　孟司	養老孟司の人間科学講義
リービ　英雄	千々にくだけて
李　恢成	可能性としての「在日」
若林　幹夫	社会学入門一歩前
若林　幹夫	都市への／からの視線
渡辺　京二	アーリイモダンの夢
渡辺　京二	逝きし世の面影
涌井　史郎（雅之）	涌井史郎（雅之）の文章による
和辻　哲郎	イタリア古寺巡礼
和辻　哲郎	新しい様式の創造（『埋もれた日本』所収）
和辻　哲郎	茸狩り（『和辻哲郎随筆集』所収）
和田　伸一郎	メディアと倫理――画面は慈悲なき世界を救済できるか
鷲谷　いづみ	自然再生
鷲田　清一	「待つ」ということ
鷲田　清一	ことばの顔
鷲田　清一	てつがくを着て、まちを歩こう
鷲田　清一	噛みきれない思い
鷲田　清一	思考のエシックス

現代文大学一覧

亜細亜大
愛知教育大
愛知県立大
愛知大
秋田大
青山学院大
青森公立大
岩手大
愛媛大
お茶の水女子大
岡山大
桜美林大
小樽商科大
大阪教育大
大阪市立大
大阪大
大阪府立大
大分大
学習院女子大
学習院大
関西学院大
関西大
関東学院大
香川大
鹿児島大
神田外語大
神奈川大
岐阜大
京都教育大
京都産業大
京都女子大
京都大
京都府立大
近畿大
九州産業大
九州大
熊本県立大
熊本大
慶應義塾大
県立広島大
駒澤大
甲南大
高知大
国際教養大
国士舘大
神戸学院大
神戸女学院大
神戸大
國學院大
佐賀大
埼玉大
札幌学院大
下関市立大
滋賀県立大
滋賀大
首都大東京
上智大
信州大
静岡県立大
静岡大
島根大
白百合女子大
センター試験
成城大
成蹊大
清泉女子大
聖心女子大
西南学院大
専修大
玉川大
高崎経済大
大東文化大
千葉大
中央大
中京大
筑波大
津田塾大
都留文科大
常葉学園大
東海大
東京経済大
東京女子大
東京大
東京理科大
東北学院大
東北大
東洋大
同志社大
徳島大
富山大
獨協大
長崎大
奈良女子大
南山大
名古屋外国語大
名古屋市立大
名古屋大
新潟大
二松學舍大
日本女子大
日本大
一橋大
広島修道大
広島大
弘前大
フェリス女学院大
福井大
福岡教育大
福岡女子大
福岡大
福島大
佛教大
法政大
防衛医科大学校
防衛大学校
北海学園大
北海道大
松山大
宮崎大
宮城教育大
宮城大
三重大
名城大
明治学院大
明治大
山口大
立教大
立正大
立命館大
立命館大・アジア太平洋大
琉球大
龍谷大
早稲田大
和歌山大

古文ジャンル別作品別題名一覧

ジャンル	作品名	題名
その他	極楽寺殿御消息	極楽寺殿御消息
	梁塵秘抄口伝集	巻一〇
近世小説	伊曽保物語	下・一一
	伊曽保物語	上・一三
	一休ばなし	巻三・九
	雨月物語	巻一
	雨月物語	巻二
	伽婢子	鍛冶友勝魂遊行の事
	伽婢子	幽霊出て僧にまみゆ
	伽婢子	和銅銭
	怪談登志男	怪談登志男
	狗張子	巻七
	月のゆくへ	巻一・上
	兼好諸国物語	兼好諸国物語
	古今百物語評判	巻四・八
	耳嚢	巻八
	耳嚢	耳嚢
	鹿の巻筆	三
	春雨物語	天津処女
	西山物語	上・かへの巻
	西鶴織留	巻四・二
	竹斎	下
	田舎荘子	田舎荘子
	田舎荘子	附録
	日本永代蔵	巻四
	日本永代蔵	巻二
	浮世物語	巻五・一
	浮世物語	巻五・六
	浮世物語	巻三・一四
	本朝桜陰比事	「兼平」の諷ひ過ぎ
	本朝美人鑑	本朝美人鑑
	落栗物語	落栗物語
	癇癖談	上
	癇癖談	癇癖談
近世随筆・紀行・その他	翁草	巻一四二
	花見の日記	花見の日記
	絵入教訓近道	絵入教訓近道
	閑田文草	閑田文草
	九州の道の記	九州の道の記
	九州の道の記	三
	庚子道の記	庚子道の記
	四山稿	四山稿
	駿台雑話	駿台雑話
	常山紀談	巻六・五
	寝ざめの友	第三文
	菅笠日記	上の巻
	西遊記	巻六
	折たく柴の記	上　父にておはせし人は
	折たく柴の記	折たく柴の記
	折たく柴の記	父の仰せられしは
	折々草	折々草
	大崎のつつじ	大崎のつつじ
	藤簍冊子	六
	藩翰譜	巻一一
	筆のすさび	筆のすさび
	蛛のふるまひ	蛛のふるまひ
近世評論	かざし抄	揷頭題
	せめては草	三編巻之八
	にひまなび	にひまなび
	歌学提要	総論・名所
	賀茂翁家集乃序	賀茂翁家集乃序

	玉勝間	巻一一
	玉勝間	巻八
	金砂	巻五
	源氏物語玉の小櫛	巻九
	源氏物語評釈	総論
	広益俗説弁	巻一七
	広益俗説弁	広益俗説弁
	紫文要領	巻下
	紫文要領	巻上
	詞の玉緒	詞瓊綸一之巻
	室町殿物語	室町殿物語
	政談	巻三
	町人嚢	町人嚢
	日暮硯	悪徳役人の改心
	日暮硯	日暮硯
	槐記	享保十年十月二十二日
幸若舞・浄瑠璃	国性爺合戦	二
	山椒太夫	下
	浄瑠璃御前物語	浄瑠璃御前物語
随筆・法語	正法眼蔵随聞記	四・三
	徒然草	一〇
	徒然草	一〇四
	徒然草	一二、一三
	徒然草	一八
	徒然草	二三一
	徒然草	二三四
	泊洦筆話	泊洦筆話
	文机談	四
	文机談	文机談
	文机談／風姿花伝	文机談／風姿花伝
	枕草子	一九五
	枕草子	一四三
	枕草子	三五
	枕草子	七一
	枕草子	二七四、二七五
説話	うたたね草紙	うたたね草紙
	ささやき竹	上
	宇治拾遺物語	巻一・一〇
	宇治拾遺物語	巻一・一八
	宇治拾遺物語	巻一〇・七
	宇治拾遺物語	巻一・八
	宇治拾遺物語	巻一五・一一
	宇治拾遺物語	巻一四・九
	宇治拾遺物語	巻一二・二
	宇治拾遺物語	巻九・八
	宇治拾遺物語	巻九・六
	宇治拾遺物語	巻五・九
	宇治拾遺物語	巻三・九
	宇治拾遺物語	巻三・七
	宇治拾遺物語	巻四・六
	宇治拾遺物語	巻二・一〇
	宇治拾遺物語	巻八・六
	宇治拾遺物語	巻六・五
	宇治拾遺物語	巻六・三
	宇治拾遺物語	巻六・四
	宇治拾遺物語／一条摂政御集	巻三・一九
	閑居友	巻上・一九
	閑居友	巻上・一二
	雁の草子	雁の草子
	吉野拾遺	下巻・第八
	古今著聞集	魚虫禽獣・六八〇
	古今著聞集	好色・三二二
	古今著聞集	孝行恩愛・三一二

古今著聞集	蹴鞠・四一〇
古今著聞集	能書・二八六
古今著聞集	武勇・三三七
古今著聞集	変化・六〇四
古今著聞集	和歌・二一七
古今著聞集	偸盗・四三三
古事談抜書	源顕兼編『古事談抜書』(『古事談』の抄出本)の一節。
古本説話集	下・五九
古本説話集	下・六〇
古本説話集	上・九
古本説話集	上・四
古本説話集	上・二〇
古本説話集	上・二七
古本説話集	上・二八
古本説話集／源氏釈	Ⅰ＝『古本　集』〈上·一九　平中が事〉の一節。Ⅱ＝『源氏釈』の一節。
御伽草子	一寸法師
御伽草子	西行
御伽草子	文正草子
江談抄	巻六
今昔物語集	巻二三
今昔物語集	巻二四
今昔物語集	巻二七
今昔物語集	巻二八
今物語	今物語
今物語	三六
今物語	四七
今物語	二、二三
沙石集	一〇・一
沙石集	一・九
沙石集	一・四
沙石集	九・一
沙石集	九・一八
沙石集	九・四
沙石集	沙石集
沙石集	三・三
沙石集	七・七
沙石集	二・六
沙石集	八・一二
沙石集	八・二
雑談集	巻七
十訓抄	一〇・七七
十訓抄	一・二八
十訓抄	九・一
十訓抄	九・二
十訓抄	四・三
十訓抄	四・二
十訓抄	七・一
十訓抄	七・一五
十訓抄	七・三〇
十訓抄	七・三一
十訓抄	七・二七
十訓抄	七・二八
十訓抄	六・一九
十訓抄	六・三四
十訓抄／新楽府	六・三一／第九篇
宿直草	巻二・九
宿直草	宿直草
撰集抄	巻一・一
撰集抄	巻五・七
撰集抄	巻四・四
撰集抄	巻四・二
撰集抄	巻七・一一
撰集抄	巻七・二

	撰集抄	巻二・三
	続古事談	巻一・三三
	続古事談	巻一・二一
	続古事談	巻五・四九、一六八
	唐物語	一九話
	唐物語	一二話
	唐物語	一〇話
	唐物語	二二話
	唐物語	六話
	発心集	巻五
	発心集	巻六
	宝物集	巻第七
	和歌威徳物語	和歌威徳物語
日記・紀行	うたたね	うたたね
	とはずがたり	巻一
	とはずがたり	巻五
	とはずがたり	巻四
	なぐさみ草	なぐさみ草
	源家長日記	源家長日記
	更級日記	春秋のさだめ
	更級日記	大納言殿の姫君
	更級日記	夫の死
	更級日記	野辺の笹原
	讃岐典侍日記	巻下
	讃岐典侍日記	巻上
	紫式部日記	紫式部日記
	春の深山路	春の深山路
	成尋阿闍梨母集	巻一
	筑紫道記	筑紫道記
	中務内侍日記	巻下
	中務内侍日記	中務内侍日記
	都のつと	都のつと
	土佐日記	一月一一日
	土佐日記	二月一六日
	土佐日記	二月五日
	東関紀行	熱田まで、矢矧まで
	道行きぶり	道行きぶり
	飛鳥井雅有日記	嵯峨の通ひ路
	弁内侍日記	五壇の御修法
	弁内侍日記	宝治元年六月一日、八日
	弁内侍日記	宝治三年正月十五日
	弁内侍日記	宝治三年二月一日
	蜻蛉日記	巻下
	蜻蛉日記	巻上
	蜻蛉日記	巻中
俳文・俳論	奥の細道	出羽三山
	我春集	我春集
	笈の小文	笈の小文
	新花摘	引用部分の重複
	増補俳諧歳時記栞草	雑之部
	独ごと	下
	鶉衣	自ら名づく説
	鶉衣	嘆老辞
	鶉衣	鶉衣
評論	ささめごと	ささめごと
	ささめごと	本
	阿仏の文	阿仏の文
	近代秀歌	やまとうたのみち
	愚管抄	巻四
	古来風体抄	古来風体抄
	古来風体抄	上
	俊頼髄脳	一一
	俊頼髄脳	一二

	俊頼髄脳	俊頼髄脳
	俊頼髄脳	六
	俊頼髄脳／今昔物語集	Ⅰ＝『俊頼髄脳』の一節。Ⅱ＝『今昔物語集』〈巻三一・三四　大和国箸墓語〉の一節。
	風姿花伝	花伝・七
	風姿花伝	第三問答条々
	無名草子	このよにすてがたきふし――文
	無名草子	女性論
	無名草子	和歌論
	無名草子／古今和歌集	Ⅰ＝『無名草子』の一節。Ⅱ＝『古今和歌集』より小野小町の和歌。
物語	いはでしのぶ物語	巻二
	しのびね	しのびね
	とりかへばや	巻一
	とりかへばや	巻三
	伊勢物語	一〇七
	伊勢物語	八七
	伊勢物語	六六、六八
	一本菊	一本菊
	宇津保物語	沖つ白波　一二
	宇津保物語	菊の宴
	宇津保物語	嵯峨の院
	宇津保物語	俊蔭
	我身にたどる姫君	巻一
	海人の刈藻	海人の刈藻
	狭衣物語	巻一
	狭衣物語	巻四
	源氏物語	葵
	源氏物語	横笛
	源氏物語	橋姫
	源氏物語	玉鬘
	源氏物語	幻
	源氏物語	須磨
	源氏物語	早蕨
	源氏物語	朝顔
	源氏物語	柏木
	源氏物語	薄雲
	源氏物語	蓬生
	源氏物語	末摘花
	源氏物語	夕顔
	源氏物語	夕霧
	源氏物語	蜻蛉
	山路の露	山路の露
	雫ににごる	雫ににごる
	住吉	下
	住吉	上
	小敦盛絵巻	小敦盛絵巻
	小夜衣	小夜衣
	松浦宮物語	松浦宮一
	松島日記	松島日記
	石清水物語	石清水物語
	窓の教	窓の教
	多武峰少将物語	多武峰少将物語
	苔の衣	秋
	大和物語	一〇一
	大和物語	一三
	大和物語	一四九
	大和物語	一四七
	大和物語	一二四、一二五
	大和物語	一六八
	大和物語	五八
	大和物語	四〇
	大和物語	七六、七七
	大和物語	六四

大和物語／古今和歌集	一五五／仮名序
大和物語／万葉集	一五五／巻一六
竹取物語	五
竹取物語	八
堤中納言物語	はいずみ
堤中納言物語	ほどほどの懸想
堤中納言物語	逢坂越えぬ権中納言
堤中納言物語	貝あはせ
堤中納言物語	思はぬ方にとまりする少将
堤中納言物語	虫めづる姫君
堤中納言物語／古今和歌集	このついで／巻一三
浜松中納言物語	巻一
浜松中納言物語	巻四
風に紅葉	巻上
平中物語	一八
平中物語	三五
平中物語	三八
平中物語	二九
平中物語	二四
平中物語	二七
木幡の時雨	木幡の時雨
夜の寝覚	巻一
夜の寝覚	巻四
夜の寝覚	巻二
落窪物語	巻一
落窪物語	巻四
落窪物語	巻二
恋路ゆかしき大将	巻二
篁物語	篁物語

歴史物語・軍記物語

栄花物語	巻一
栄花物語	巻五
栄花物語	巻三一
栄花物語	巻四
栄花物語	巻二五
義経記	巻五
義経記	巻三
義経記	巻二
義経記	巻八
今鏡	花のあるじ
今鏡	新枕
今鏡	藤波
曽我物語	巻三
増鏡	おどろのした
増鏡	おりゐる雲
増鏡	さしぐし
増鏡	久米のさら山
増鏡	春の別れ
増鏡	内野の雪
増鏡	北野の雪
太平記	巻三五
大鏡	雑々物語
大鏡	三条天皇
大鏡	時平伝
大鏡	太政大臣道長
大鏡	太政大臣頼忠
大鏡	内大臣道隆
平家物語	延慶本　成経帰宅
平家物語	巻一〇
平家物語	巻九
平家物語	巻三
平家物語	巻四
平家物語	巻六
平治物語	巻三

	保元物語	巻中
和歌	琴後集	琴後集
	建礼門院右京大夫集	建礼門院右京大夫集
	源宰相中将家和歌合	康和二年四月二十八日宰相中将国信歌合
	後鳥羽院御口伝	後鳥羽院御口伝
	志濃夫廼舎家集	四
	女郎花物語	中・三五
	赤染衛門集	赤染衛門集
	百人一首一夕話	四
	隆房集	隆房集
	蓮の露	蓮の露
	六百番歌合	巻上・七

古文大学一覧

愛知教育大
愛知県立大
愛知大
秋田大
青山学院大
岩手大
愛媛大
お茶の水女子大
岡山大
小樽商科大
大阪教育大
大阪市立大
大阪大
大阪府立大
大分大
学習院女子大
学習院大
関西学院大
関西大
金沢大
香川大
鹿児島大
神奈川大
岐阜大
京都教育大
京都産業大
京都女子大
京都大
京都府立大
共立女子大
近畿大
九州産業大
九州大
熊本県立大
熊本大
県立広島大
駒澤大
甲南大
高知大
神戸学院大
神戸大
國學院大
佐賀大
埼玉大
滋賀県立大
滋賀大
首都大学東京
上智大
信州大
静岡大
島根大
白百合女子大
センター試験
センター入試
成城大
成蹊大
清泉女子大
聖心女子大
西南学院大
専修大
高崎経済大
千葉大
中央大
中京大
立教大
龍谷大
筑波大
都留文科大
東京女子大
東京大
東北大
東洋大
同志社大
徳島大
富山大
獨協大
長崎大
奈良女子大
南山大
名古屋市立大
名古屋大
新潟大
二松學舍
日本女子大
日本大
一橋大
広島修道大
広島大
弘前大
フェリス女学院大
福井大
福岡教育大
福岡女子大
福岡大
福島大
佛教大
法政大
防衛医科大学校
防衛大学校
北海道大
松山大
宮崎大
宮城教育大
三重大
名城大
明治学院大
明治大
山口大
山梨大
立正大
立命館大
立命館大・立命館アジア太平洋大
琉球大
早稲田大
和歌山大

漢文ジャンル別作品別題名一覧

ジャンル	作品	題名
経・五経	易経	上経　乾　文言伝
	韓詩外伝	巻一〇
	韓詩外伝	巻九
経・礼	大戴礼記	曾子制言　中　第五四
史・雑史	広陽雑記	広陽雑記
	国語	晋語　九
	戦国策	燕策
	戦国策	秦策
	戦国策	楚策
	中日甲午戦争	中日甲午戦争
	通鑑紀事本末	巻三〇　上
	貞観政要	論誠信　第一七
	貞観政要	論忠義　第一四
	貞観政要	論任賢　第三
	貞観政要	論貪鄙　第二六
	鴉片事略	鴉片事略
史・史評	感旧集序	感旧集序
	五朝名臣言行録	巻七
	宋名臣言行録	宋名臣言行録
史・正史	漢書	巻一下　高帝記　第一下
	漢書	巻二四　食貨志　第四上
	旧唐書	良吏伝
	旧唐書	狄仁傑
	後漢書	巻一一　劉玄劉盆子列伝
	後漢書	巻四三　朱楽何列伝
	後漢書	巻八一　王忳伝
	史記	滑稽列伝
	史記	秦始皇帝本紀
	史記	斉太公世家
	史記	李斯列伝
	新唐書／旧唐書	巻一六五　九〇／巻一七三　一二三
	晋書	楽広伝
	晋書	芸術伝　幸霊
	晋書	石苞伝（崇）
	宋史	王著伝
	魏書	列伝第七　中・景穆十二王　任城王
史・伝記	唐鋳万伝	唐鋳万伝
	列女伝	巻二　楚於陵妻
	列女伝	巻六　楚野弁女
	列仙伝	巻上　瑕邱仲
	晏子春秋	六巻　一
史・別史	十八史略	巻一　春秋戦国
	十八史略	巻三　三国
	十八史略	巻二　秦　二世皇帝
	十八史略	巻六　五代
	十八史略	巻六　宋上
子・雑家	郁離子	郁離子
	公孫竜子	跡府篇
	呂氏春秋	巻一七　任数篇
	論衡	書虚　第一六
	淮南子	巻一三　氾論訓
	淮南子	巻一八　人間訓
子・儒家	顔氏家訓	省事第一二
	孔子家語	巻第二　致思第八
	孔子家語	子路初見
	孔子家語	弁政
	孔子家語	六本第十五
	孝子伝	孝孫原谷
	説苑	巻一〇　敬慎
	説苑	巻一八　弁物
	説苑	巻九　正諫

	説苑	巻二〇　反質
	大学衍義補	巻八二
	伝習録	巻上
	孟子	告子篇下
	論語義疏	公冶長
	呻吟語	呻吟語
	荀子	巻二〇　子道篇第二九
子・小説家	夷堅志	夷堅志
	玉壺清話	巻六
	広異記	広異記
	在園雑志	在園雑志
	世説新語	任誕篇／簡傲篇
	世説新語	方正篇
	世説新語	讒険篇
	捜神後記	巻九　楊生狗
	続夷堅志	巻一
	太平広記	気義
	太平広記	謝小娥伝
	太平広記	聞奇録
	池北偶談	巻二三　黄衣人
	能改斎漫録	巻一二　記事
	夜譚随録	夜譚随録
子・道家	神仙伝	巻五
	荘子	外篇　田子方
	荘子	雑篇　第八
	荘子	秋水篇
	荘子	斉物論
	列子	節符　第八　一四節
	老子／韓非子	論徳　第三八／解老　第二〇
子・法家	管子	軽重　戊　第八四
	韓非子	安危篇　第二五
	韓非子	外儲説左上　第三二
	韓非子	説林上　第二二
	韓非子	第七　喩老　第二一
	韓非子	内儲説上　七術　第三〇
	韓非子	二柄篇　第七
子・類書	玉泉子	玉泉子
	古逸叢書	琱玉集
	太平御覧	巻詩外伝　逸文
	独異志	歴陽の嫗
	酉陽雑俎	続集第一　支諾皐上
	北夢瑣言	北夢瑣言
	蒙求	一九四
	蒙求	一〇五
	蒙求	三四三
	蒙求	四一三
	蒙求	四六三
	蒙求	二六三
	尹文子	尹文子
集・詩	蘇渙	変律詩
	蘇軾	和陶飲酒二十首
	戴叔倫	除夜宿石頭駅
	杜甫	縛鶏行
	陶淵明	飲酒
	白居易	捕蝗
	楊万里	春晴懐故園海棠
	陸游／黄漢	贈猫／猫苑
集・日本漢文	伊藤仁斎	仁斎日札
	伊藤仁斎	論語古義
	塩谷宕陰	安井仲平の東遊を送るの序
	岡直養	彪邨文集
	菊池五山	五山堂詩話
	原念斎	先哲叢談　伊藤仁斎

	原念斎	先哲叢談　野中兼山
	広瀬淡窓	月下独酌
	佐久間象山	贈小林炳文
	斎藤竹堂	水喩
	山井元行／『論語』	『賢乎已』／『論語』　陽貨　第一七
	大槻磐渓	近古史談
	淡海三船	唐大和上東征伝
	中島棕隠	鴨東四時雑咏
	尾関富太郎	魚釣先生伝
	万里集九	梅花無尽蔵
	頼山陽	鼠説
	林述斎	蕉窓文草
集・文章	右台仙館筆記	右台仙館筆記
	王安石	原過
	王安石	上仁宗皇帝言事書
	王安石	遊褒禅山記
	稼亭先生文集	借馬説
	韓愈	獲麟解
	韓愈	雑説
	韓愈	師説
	曲洧旧聞	巻一〇
	元豊類藁	醒心亭記
	衡盧精舎蔵稿	衡盧精舎蔵稿
	司馬光	温公続詩話
	司馬光	家範
	司馬光	独楽園記
	司馬光	諫院題名記
	司馬光	涑水記聞
	小畜集	紀蜂
	新書	巻九　修政語下
	新書	巻六　春秋
	西蜀唐圃亭先生行略	西蜀唐圃亭先生行略
	斉東野語	巻一一
	蘇軾	李氏山房蔵書記
	双槐歳鈔	双槐歳鈔
	壮悔堂文集	壮悔堂文集
	曹子建集	巻一〇　令禽悪鳥論
	続文章軌範	売柑者言
	遜志斎集	遜志斎集
	智嚢	智嚢
	竹窗随筆	対境
	竹窗随筆	竹窗随筆
	任光禄竹渓記	任光禄竹渓記
	文選	与楊徳祖書
	墨客揮犀	巻七
	名公書判清明集	名公書判清明集
	柳宗元	始得西山宴游記
	羅隠	両同書
	羅隠	讒書　巻三　荊巫
	洛陽伽藍記	巻四
	李文饒文集	李文饒文集
	呂祖謙	詩律武庫
	呂祖謙	東萊（左氏）博議
	袁枚	黄生借書説
	袁枚	蔡書生
	袁枚	袁枚
	魏叔子文集	魏叔子文集

漢文大学一覧

愛知教育大
愛知県立大
愛知大
秋田大
岩手大
愛媛大
お茶の水女子大
岡山大
小樽商科大
大阪教育大
大阪市立大
大阪大
大分大
学習院大
金沢大
香川大
鹿児島大
岐阜大
京都教育大
京都府立大
九州大
熊本県立大
熊本大
県立広島大
神戸大
國學院大
佐賀大
埼玉大
滋賀大
上智大
信州大
静岡大
島根大
センター試験
成蹊大
清泉女子大
高崎経済大
千葉大
中央大
中京大
筑波大
都留文科大
東京大
東北大
徳島大
獨協大
奈良女子大
南山大
名古屋大
新潟大
二松學舍大
広島大
弘前大
福井大
福岡教育大
福岡女子大
福島大
法政大
防衛大学校
北海道大
宮崎大
宮城教育大
三重大
明治大
山口大
山梨大
立教大
立命館大
立命館大・立命館アジア太平洋大
琉球大
早稲田大
和歌山大

古文・漢文問題データベース CD-ROMVol.4 サポート用紙

お名前	
ご住所	〒 TEL （ ） FAX （ ）
学校名・会社名など	部署名
E メールアドレス	
症状（できるだけ具体的に）	

使用機種

パソコン本体	メーカー 機種
メモリ	容量 MB
ハードディスク	メーカー 機種 容量 MB
CD-ROM/DVD-ROM ドライブ	メーカー 機種
ディスプレイボード	メーカー 機種
プリンタ	メーカー 機種 接続方法
その他の周辺機器	メーカー 機種 ポート
Windows の種類	□ Microsoft Windows XP 32Bit 日本語版 Home Edition □ Microsoft Windows XP 32Bit 日本語版 Professional □ Microsoft Windows Vista 32Bit 日本語版 Home Basic □ Microsoft Windows Vista 32Bit 日本語版 Home Premium □ Microsoft Windows Vista 32Bit 日本語版 Business □ Microsoft Windows Vista 32Bit 日本語版 Enterprise □ Microsoft Windows Vista 32Bit 日本語版 Ultimate □ Microsoft Windows 7 32Bit 日本語版 Home Premium □ Microsoft Windows 7 32Bit 日本語版 Professional □ Microsoft Windows 7 32Bit 日本語版 Ultimate

＊コピーしてお使いください